

つながる環 ひろがる場

～若年層の区政参加・地域活動への参加～



平成31(2019)年3月

新宿区新宿自治創造研究所

新宿区総務部人材育成センター

目次

第1章 政策課題研究における基本的な考え方	
1 なぜ新宿区が若年層の区政参加・地域参加を考えるのか	1
2 政策課題研究のアプローチ	1
3 調査・研究から得られためざましちの姿	2
4 政策課題研究の対象について	2
第2章 現状分析	
1 新宿区の人口・世帯等の特徴	3
2 しんじゅく若者意識調査と地域活動の経験のある学生に対する調査との比較分析	13
3 区内における若者の地域活動参加にかかる実態調査（ヒアリング等）	27
4 若者関係事業の実施状況調査結果	28
第3章 現状分析のまとめと課題	
第1節 現状分析のまとめ	29
第2節 若者の地域活動参加に向けた課題	29
1 区政参加・地域活動参加へのきっかけの少なさ	29
2 若者の地域活動を推進する上でのノウハウの少なさ	30
3 単身者の地域との関係性の希薄さ	31
第4章 政策提案	
第1節 提案する政策の方向性	33
第2節 提案する政策	33
政策1 「若者参加による事業PR ～区政参加の足掛かり～」	33
1 趣旨	33
2 主な対象	33
3 内容・効果	34
4 事業の形態	34
5 事業の例	35
6 推進計画	36
政策2 「プラットフォームの設立と活動 ～地域活動参加の促進～」	37
1 趣旨	37
2 主な対象	37
3 内容・効果	38
4 プラットフォームの形態等	38
5 推進計画	41
おわりに	43
資料編	44
資料1 学生調査アンケート調査票	45
資料2 ヒアリング調査結果	51
資料3 若者関係事業一覧	63
政策課題研究PTメンバー、全体会開催実績	73

第1章 政策課題研究における基本的な考え方

1 なぜ新宿区が若年層の区政参加・地域参加を考えるのか

若年層の区政参加・地域参加は、主に地方における都市部への人口流出を食い止める視点でとらえられてきた課題であり、人口流入が激しい新宿区においては無関係であるように考えられる。

新宿自治創造研究所の年齢区分別人口の推移では、2035年までは人口増加が続き、現在の人口構成比と同程度で推移することが予測されていることから、短期的には生産年齢人口の流出といった視点での課題は新宿区には該当しない。

しかしながら、新宿区においては、都心区特有の転入が多い反面、短期間での転出も多い。また、しんじゅく若者調査では、「区政に非常に関心がある」「少し関心がある」と回答した方が44.5%いるものの、「地域活動に参加したことがない」と回答した方が90%以上といった結果が出ている。この結果からは、区民の約半数が区政に関心があるものの、地域活動には参加していないといった状況が読み取れる。

新宿区は、歌舞伎町や神楽坂といった繁華街や落合地域をはじめとする住宅地等に、それぞれの地域コミュニティが形成されており、地域の課題解決や伝統・文化継承の担い手となっている。こうした地域コミュニティにおいて、担い手の不足や高齢化は、新宿区においても他の自治体と同様に課題となっている。新宿区においても長期的には、少子高齢化が進んでいく見通しであることから、若年層が地域参加をするしくみづくりをしていくことは、持続可能な地域社会を形成していくための重要な課題である。

そうしたコミュニティ形成上の課題とは別に、成人年齢が18歳に引き下げられること等から、若年層の区政参加を促すことは、すべての世代が活躍する社会づくりといった視点からも大切であると考えている。

こうした課題意識のもと、「若年層の区政参加・地域活動への参加」をテーマに研究し、推進するための政策を提案するものである。

2 政策課題研究のアプローチ

政策課題研究プロジェクトチーム（以下「PT」という。）では前述の課題意識のもと、まず、若年層に対するこれまでの施策などの調査を行った。その結果、若年層に対しては、新たな文化の創造や次世代を担ってもらいたいという希望を持っている一方で、行政施策では「若者は社会が育てる」といった視点が主なもので、国の「子供・若者白書」においても、「育成環境の整備」「困難を抱える若者への支援」に重点が置かれており、若年層が地域社会で活躍できるしくみとしては、地域おこし協力隊が挙げられる程度であった。このほか、図書館へのレファレンスによるデータ収集を行ったが、統計的なデータにより

若年層の区政参加・地域参加の実態を表す有用なデータを収集することはできなかった。

また、学術分野における若年層に関する研究も「新人類」、「ロスジェネレーション世代」、「ゆとり世代」といった各世代の文化や行動様式の分析に力点が置かれており、若者の力をいかに社会に活用していくのか、といった観点からの研究は十分に行われていない状況であることが分かった。

こうした状況を踏まえ、まず、新宿区内で地域活動を行っている若年層の実態の把握が重要であるとの認識に立ち、若年層の区政参加・地域参加の実態調査を行い、研究を進めた。

3 調査・研究から得られためざすまちの姿

P Tでは、実態調査を進めるとともに、若年層が区政参加・地域参加をすることでどのような地域社会を形成していくのかという、めざすまちの姿について検討を行った。

検討では、まず、「若年層の区政参加・地域参加」についてP Tメンバーが想起するイメージを共有した。その内容は「コミュニティ」「きっかけ・場」「若年層のスキル」「区政参加の理由」「若年層を集めるしくみ」の5つに分類された。

また、若年層の実態調査から得られた、地域活動に参加し充実感にあふれ生き生きとした様子の若年層の姿や、若年層を受け入れることで活性化している地域の様子も共有された。こうした検討から、既存のコミュニティや新たなコミュニティを若年層が自らのスキルなどを発揮する場としていくことが区政や地域参加につながる、といった考えに至った。

こうした議論を踏まえ、若年層の区政参加・地域活動参加によって、若年層のスキルや能力が発揮され活力にあふれた地域社会を形成するため、「若者が自分の能力を発揮し、自己実現できるまち」をめざすまちの姿とした。

4 政策課題研究の対象について

上述の検討経過を踏まえ、本報告書で研究の対象とする「若年層」の「区政参加」「地域参加」の内容を明確化するため、次の定義をする。

- (1) 若年層 新宿区に在住、在勤、在学する 18 歳から 39 歳までの方々（以下「若者」という。）
- (2) 区政参加 区の施策・事業に参加すること。
- (3) 地域参加 町会・自治会をはじめとする地域コミュニティ活動、NPO 活動等、地域の課題解決や魅力を向上させる活動等に従事すること。

第2章 現状分析

本章では、新宿区における若者の特徴や、地域との関わりについての現状・動向について探るため、人口統計等の基礎的なデータや区民意識調査等、既存調査結果の分析を行った。また、区内の学生等に対するアンケートやヒアリング調査等を実施し、本報告書の調査・研究の基礎とした。

なお、各種調査（出典）において「単独」、「単身」と表記しているものは、“一人暮らし”を指す。

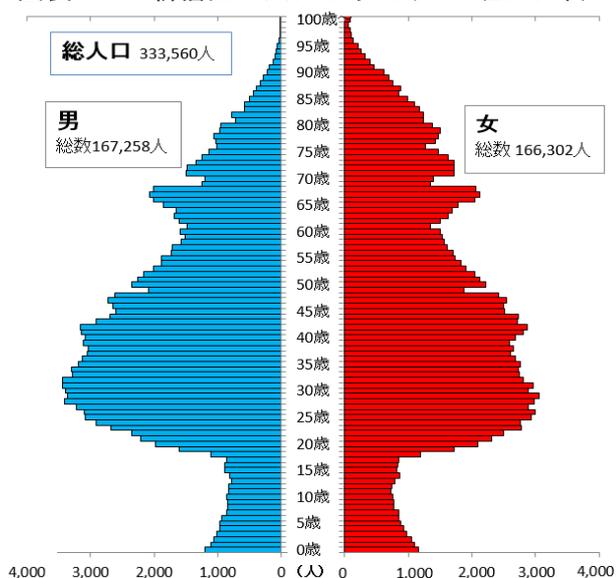
1 新宿区の人口・世帯等の特徴

(1) 新宿区の人口構成・世帯構成の特徴（国勢調査）

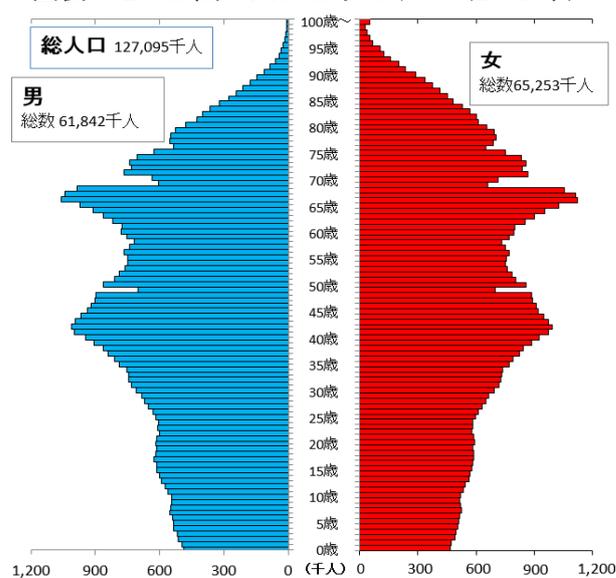
① 人口ピラミッド

男女とも18歳までが少なく、20代で多くなっている。全国に比べ20～30代の人口構成比が高くなっている。

図表 1-1 新宿区の人口ピラミッド（2015年）



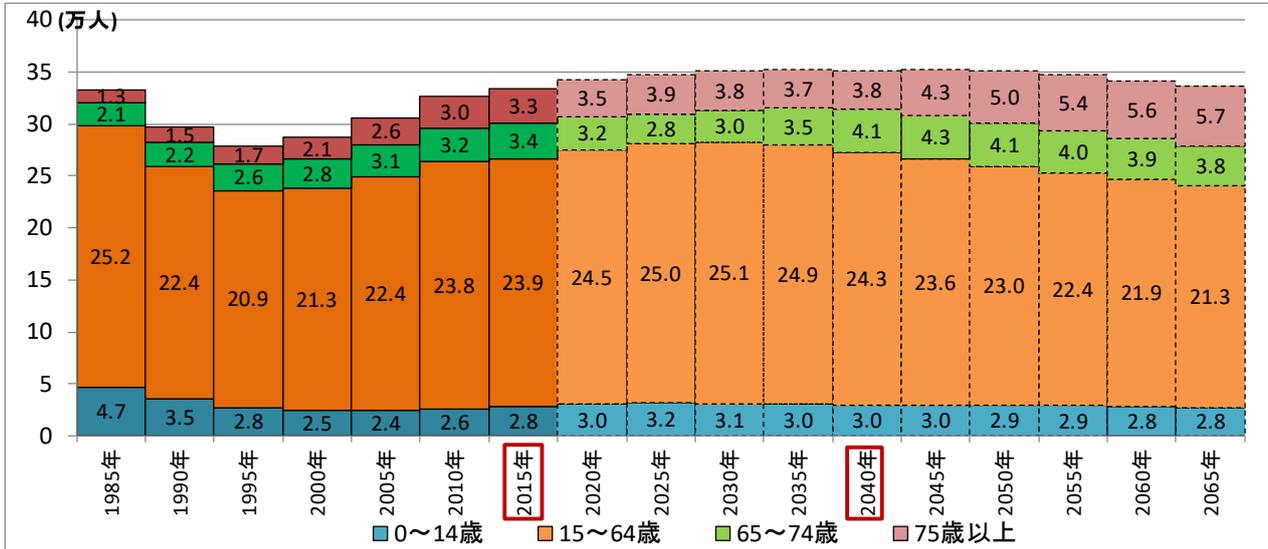
図表 1-2 全国の人口ピラミッド（2015年）



② 新宿区の年齢4区分別人口の推移

人口増加が続く 2035 年までは、2015 年と比べ大きな変化はみられない。しかし、2040 年以降は生産年齢人口（15～64 歳）の減少が大きくなる一方、高齢者人口（65 歳以上）の増加が大きくなるという推計結果となっている。

図表 2 新宿区の年齢4区分別人口の推移（国勢調査）* 推計値は新宿自治創造研究所が作成

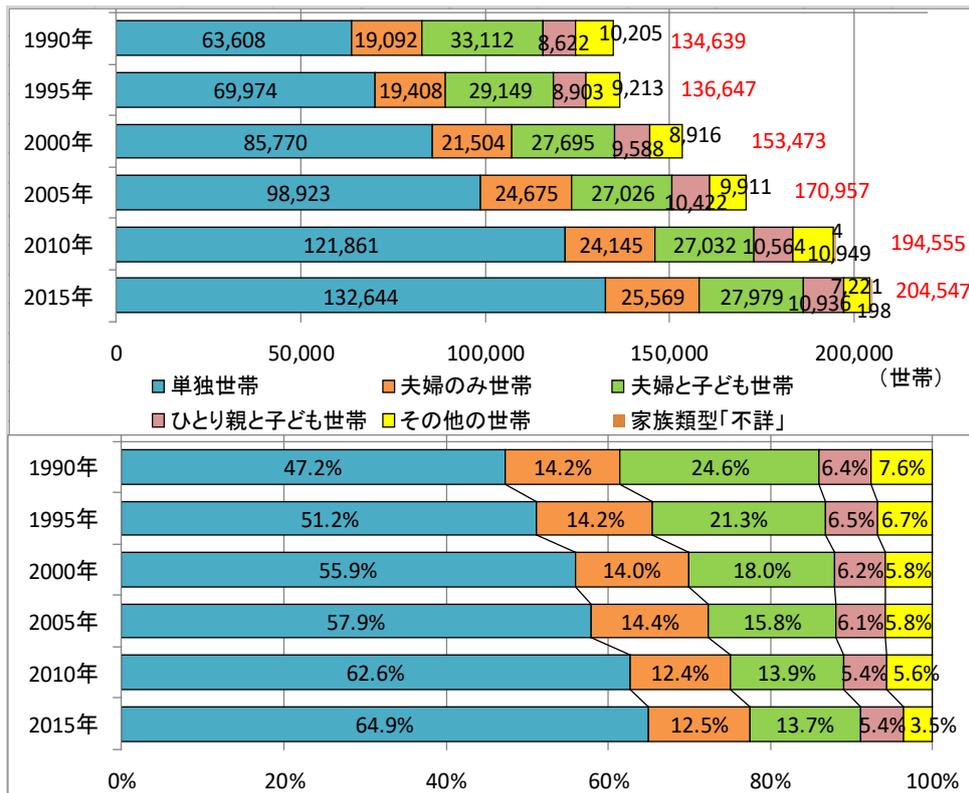


(2) 新宿区の世帯の特徴・推移

① 新宿区の一般世帯の家族類型別世帯数と割合の推移

新宿区の単独世帯は、世帯数、割合ともにこの20年間増え続けている。今後もこうした傾向が続くことが推測される。

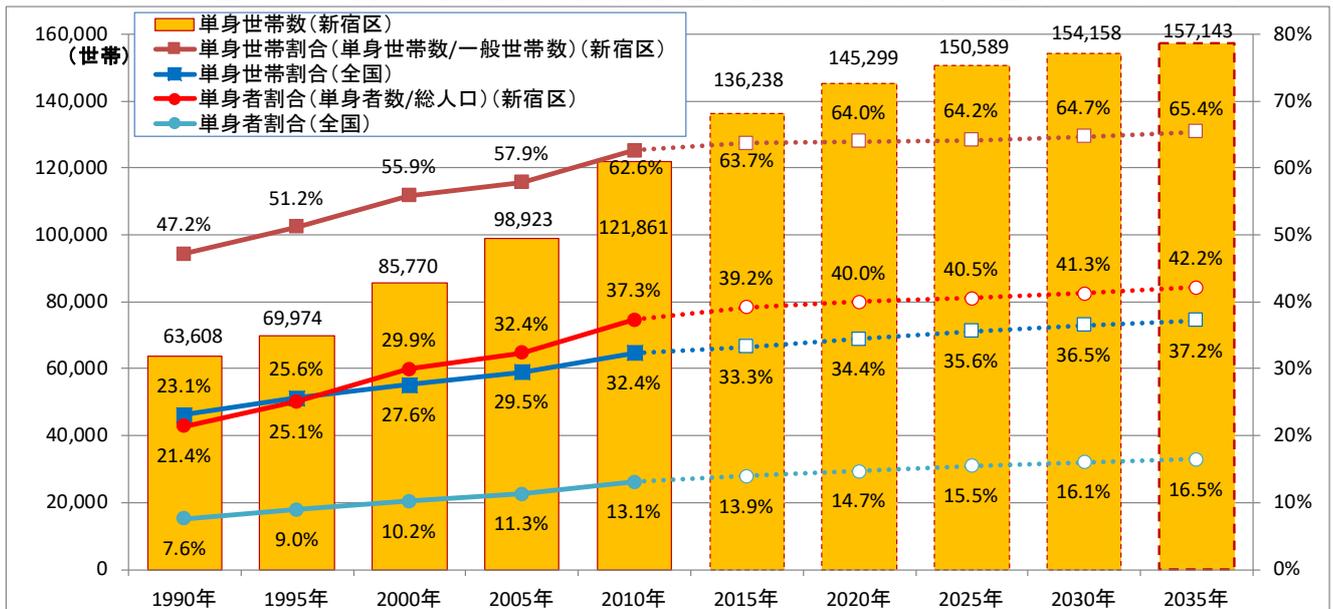
図表 3 新宿区の一般世帯の家族類型別世帯数と割合の推移（国勢調査）



② 新宿区と全国の単身世帯の推移と推計

2010年の新宿区の単身世帯数の一般世帯に占める割合は62.6%で、全国（32.4%）のおよそ2倍となっている。また、1990年から2010年までの20年間に新宿区の単身世帯数は約2倍に増加、割合は15.4ポイント上昇している。2035年までの推計をみると、全国に比べ単身世帯の割合は高い水準で増え続ける見込みとなっている。

図表 4 単身世帯の推移と推計値（国勢調査）* 全国の推計値は国立社会保障・人口問題研究所が作成（2010年基準）、新宿区の推計値は新宿自治創造研究所が作成（2010年基準）



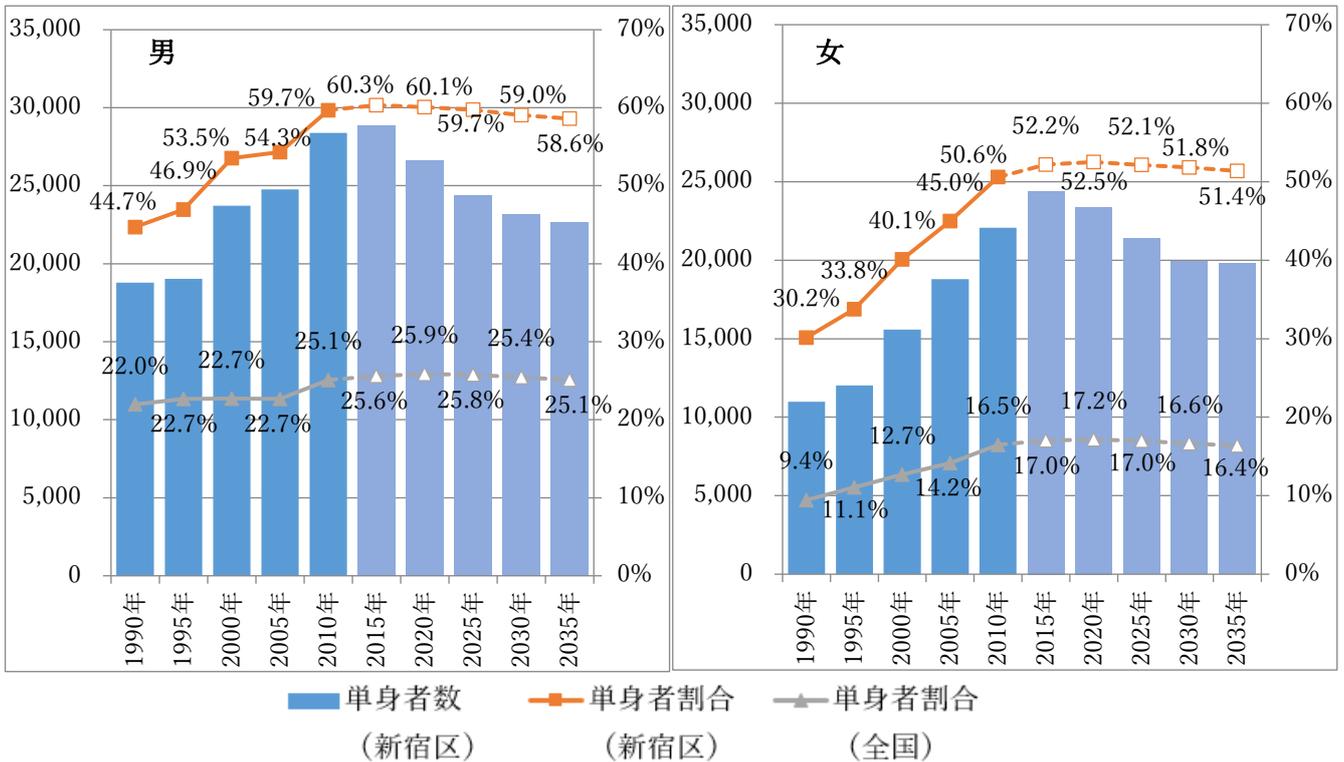
※「一般世帯」・・・国勢調査では「施設等の世帯」（学校の寮の学生等、病院等の入所者、社会施設の入所者、定まった住居を持たない単身者等からなる世帯）以外の世帯を指す。

③ 男女・年代別単身者割合の推移

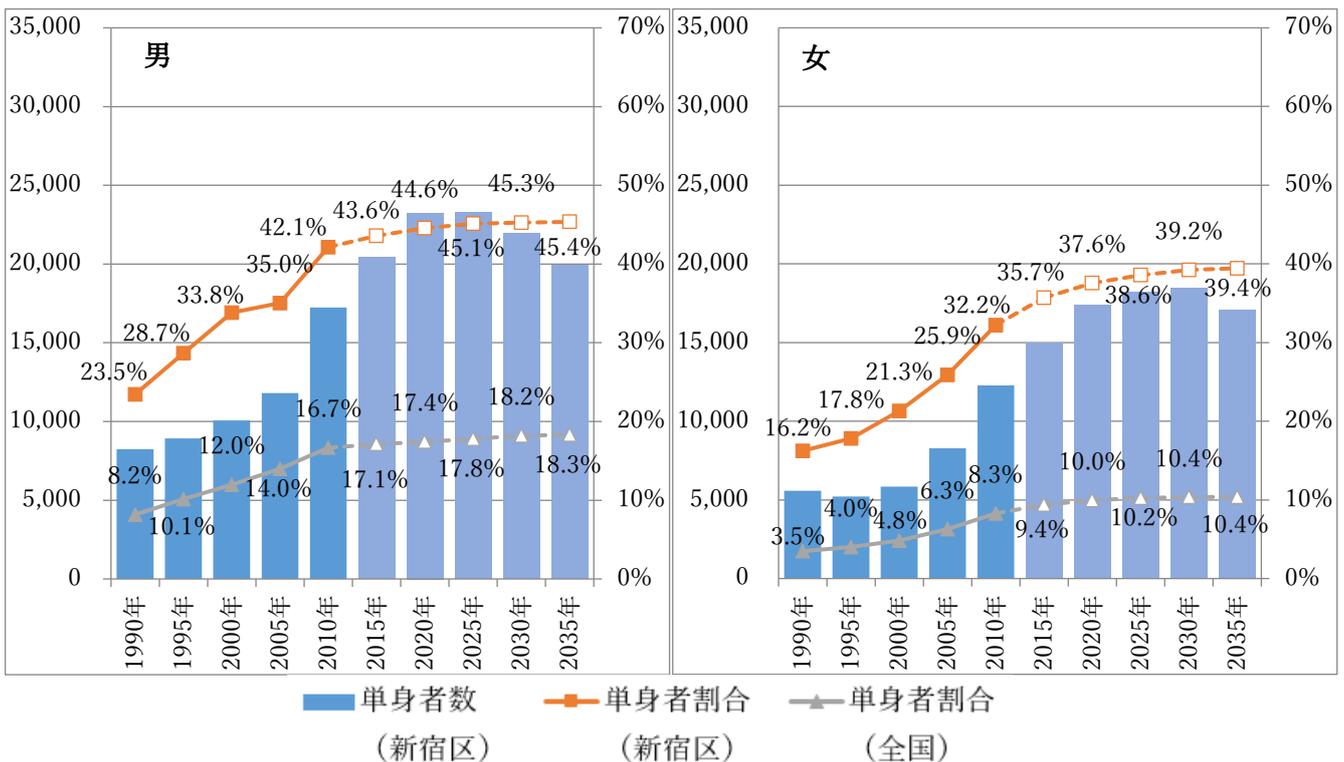
若年期をみると、2010年時点で、区内男性の約6割、女性の約5割が単身者となっている。また、全ての年齢区分で全国の2倍から4倍程度高くなっており、35歳以降（壮年期～高齢期）では、2035年まで逡増していく見込みである。

図表5 男女・年代別単身者割合の推移（国勢調査）＊全国の推計値は国立社会保障・人口問題研究所が作成（2010年基準）、新宿区の推計値は新宿自治創造研究所が作成（2010年基準）

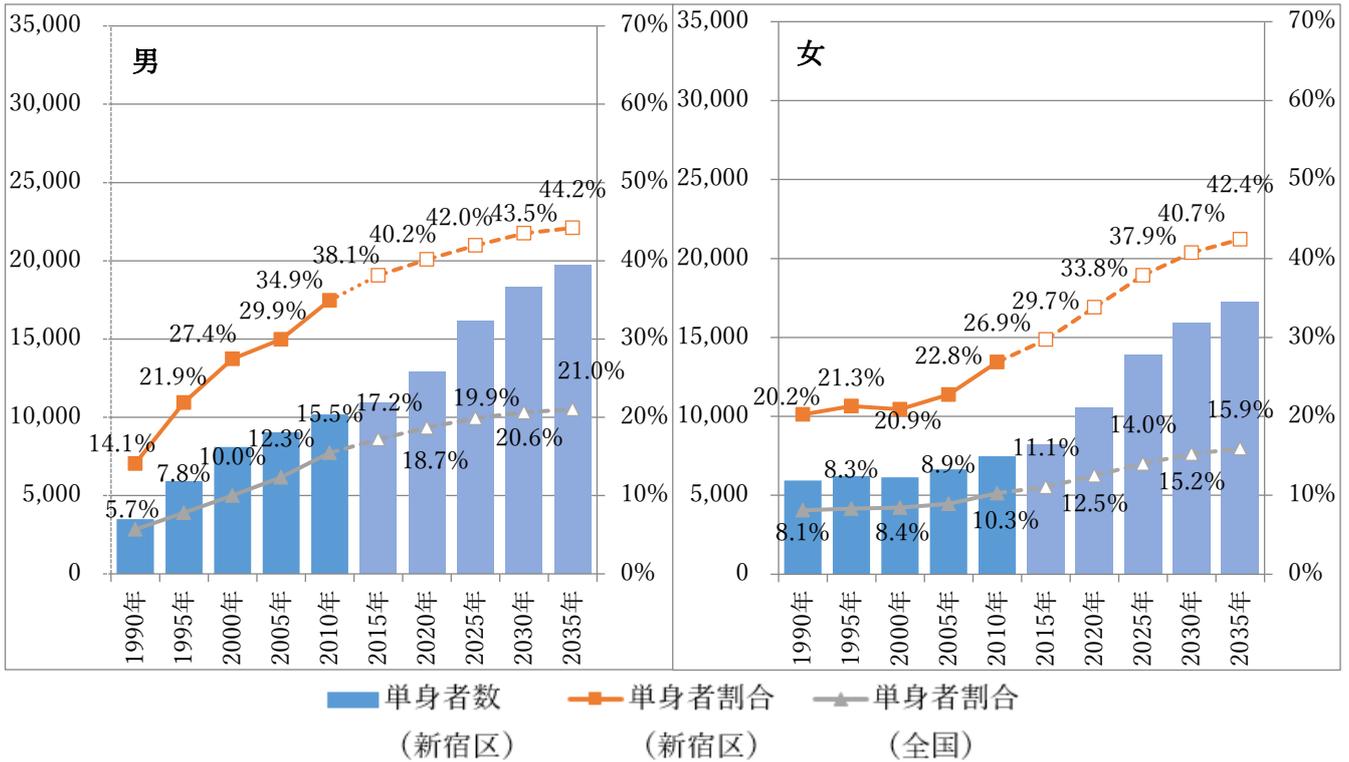
図表5-1 若年期（20～34歳）



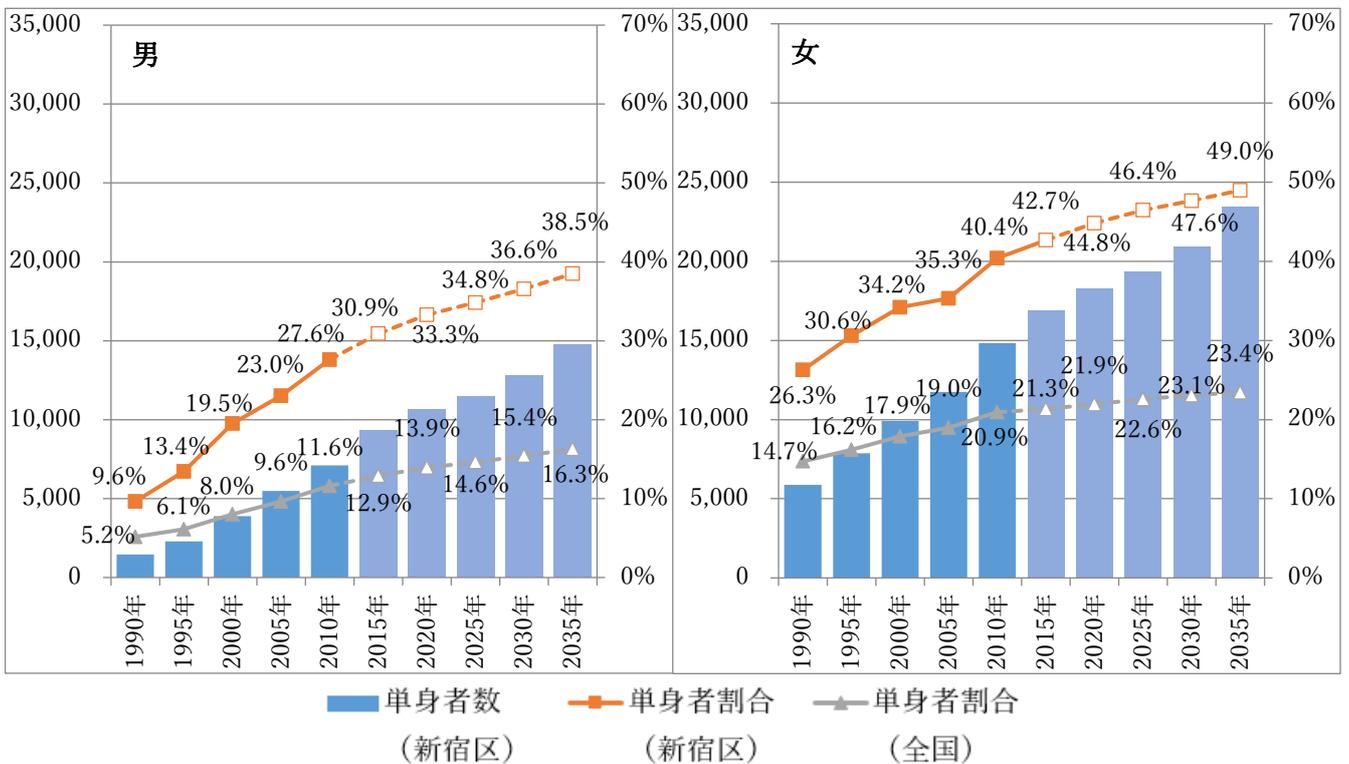
図表5-2 壮年期（35～49歳）



图表 5-3 壮年後期 (50~64 歳)



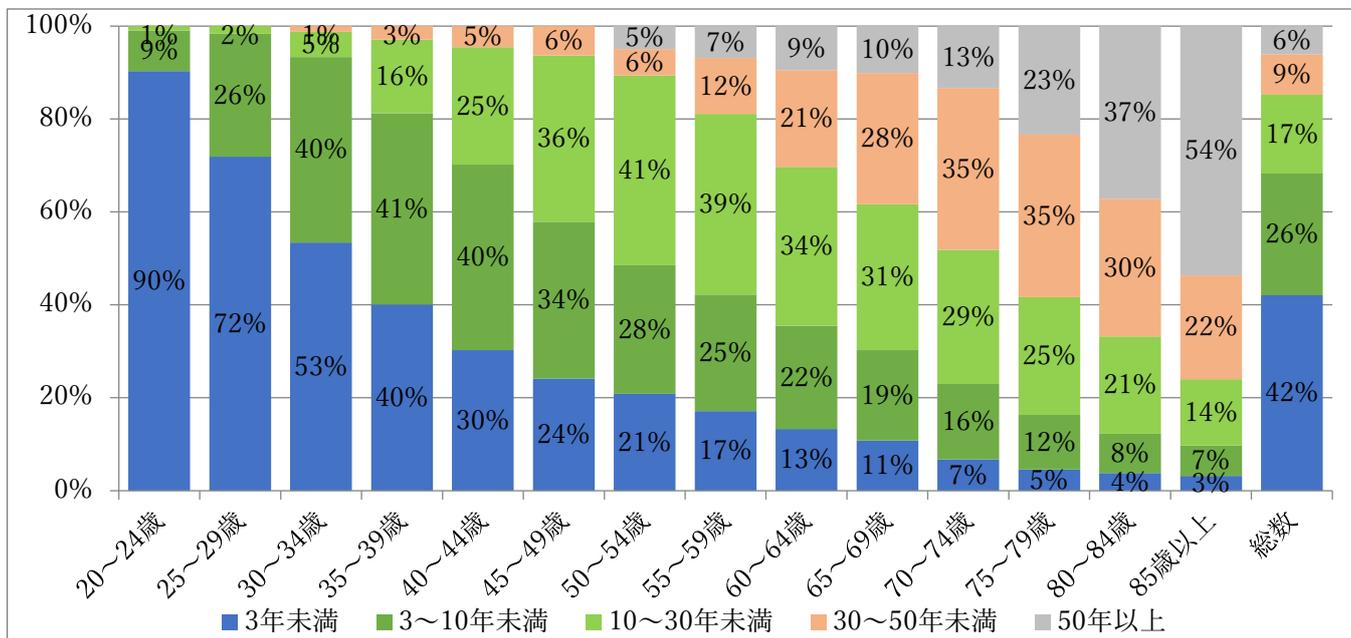
图表 5-4 高齢期 (65 歳~)



④ 新宿区の単身者の男女・年齢5歳別新宿区での居住期間

20歳から24歳の居住期間は3年未満が9割を占めるが、年齢が上がるとともに居住期間は長くなり、定住化の傾向が強まっていく。

図表6 新宿区の単身者の男女・年齢5歳別新宿区での居住期間（住民基本台帳データ2014年）

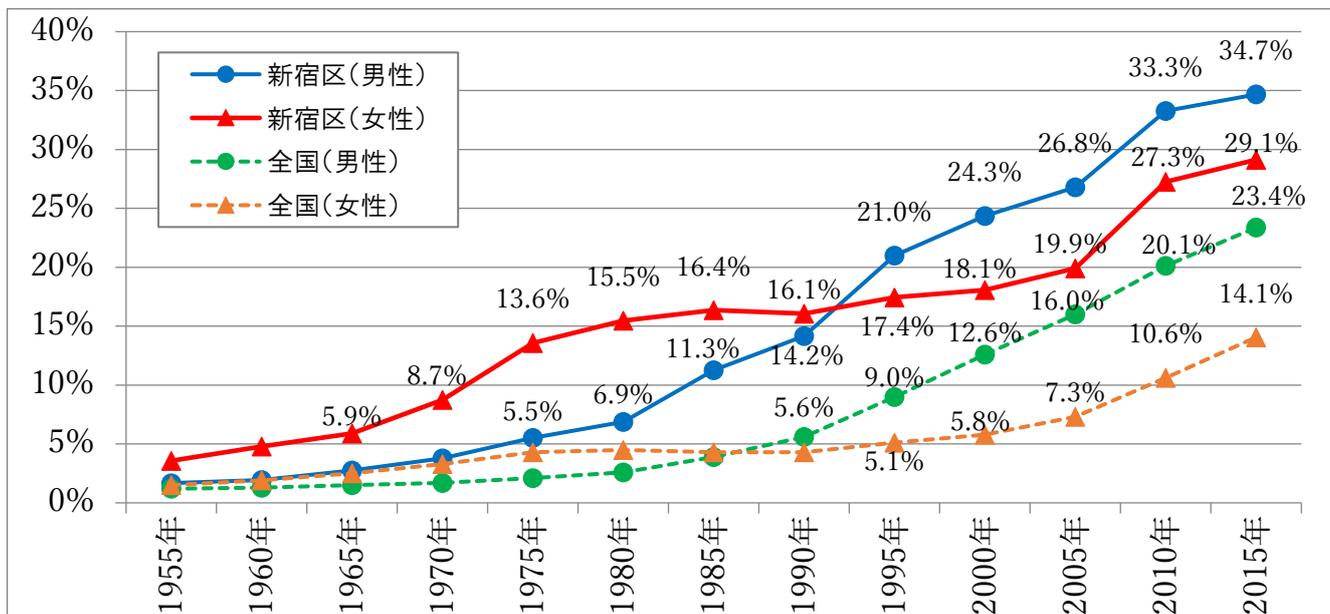


(3) 新宿区の生涯未婚率の特徴

① 生涯未婚率の推移

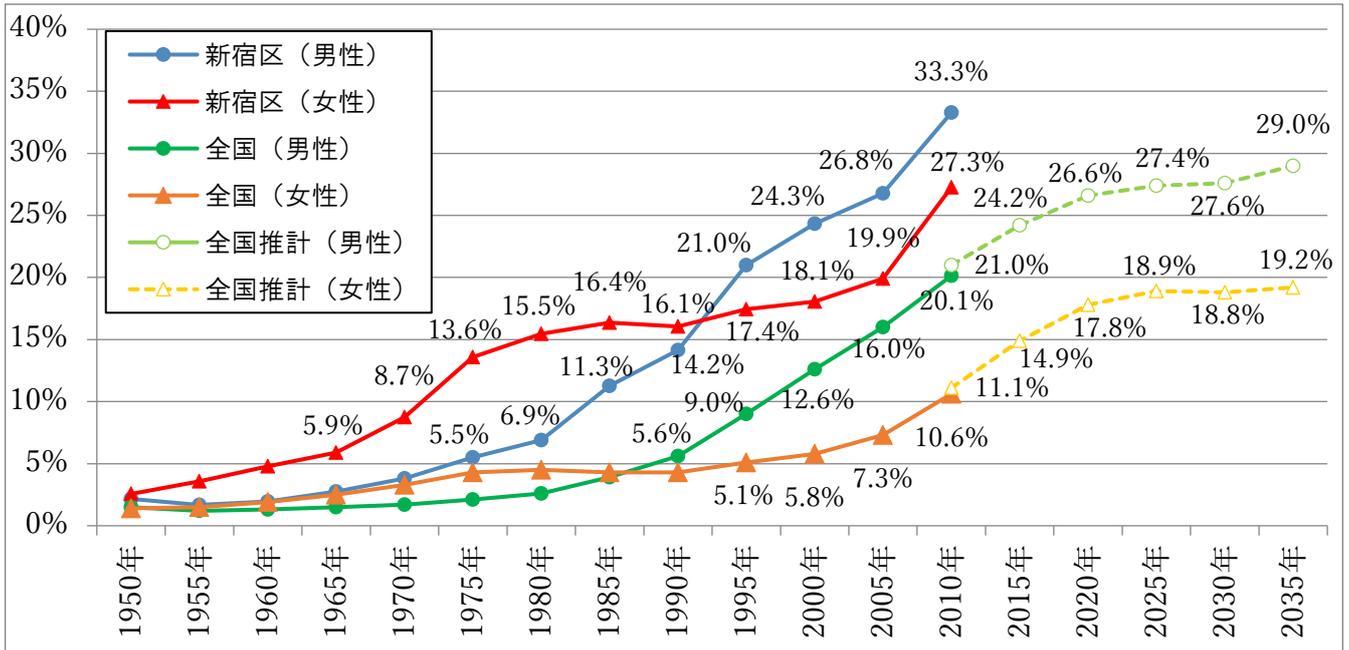
新宿区の生涯未婚率は全国に比べ高くなっている。生涯未婚率は、男女ともに上昇しており、2015年は男性の3人に1人以上（34.7%）、女性の3割弱（29.1%）が未婚者であり、全国平均（男性23.4%、女性14.1%）を男女とも上回っている。また、全国と同様に今後も上昇することが推測される。

図表7-1 生涯未婚率の推移（国勢調査）



図表 7-2 生涯未婚率の推移（新宿区・全国）（国勢調査）と全国推計値

* 全国の推計値は国立社会保障・人口問題研究所が作成（2010年基準）



※全国推計は、国立社会保障・人口問題研究所・日本の世帯推計（平成 25 年 1 月）の男女年齢 5 歳階級別配偶関係別人口を基に算出されている。推計の基準となる 2010 年の値は年齢が「不詳」の人口を按分しているため、国勢調査による実績値と異なっている。

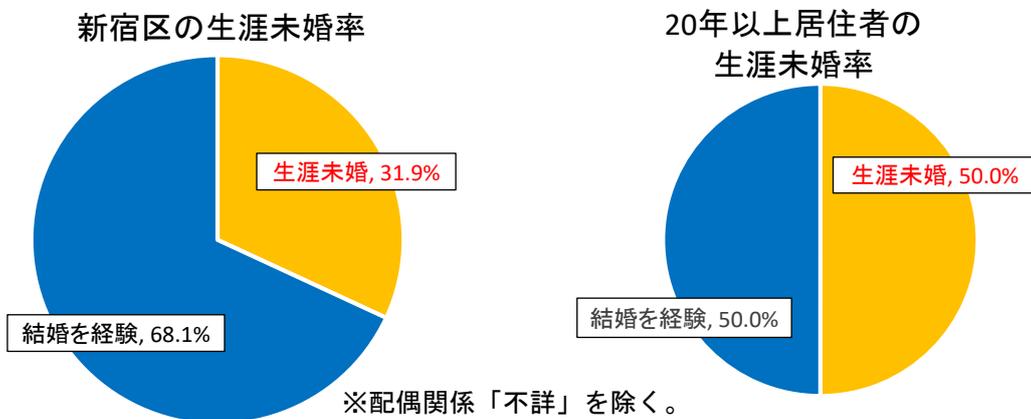
※生涯未婚率 50 歳時点で一度も結婚をしたことのない人の割合

（「45～49 歳」の未婚率と「50～54 歳」の未婚率の平均値）* 未婚：離別・死別経験者を含まない

② 新宿区全体及び 20 年以上居住者の生涯未婚率

出生時から新宿区に 20 年以上居住している区民の生涯未婚率は 50.0%（45～49 歳 59.8%、50～54 歳 40.2%の平均）と、新宿区全体の生涯未婚率 31.9%（45～49 歳 34.3%、50～54 歳 29.6%の平均）を上回っている。このことから、若い頃から区内に住み、壮年・高齢期を迎えた者の生涯未婚率は、新宿区全体の生涯未婚率より高いといえる。

図表 8 新宿区全体及び 20 年以上居住者の生涯未婚率（男女計）（2015 年国勢調査から分析）



※新宿区の 45～49 歳人口（24,506 人）、50～54 歳人口（20,801 人）

※20 年以上区内に居住する 45～49 歳人口（2,477 人）、50～54 歳人口（3,095 人）

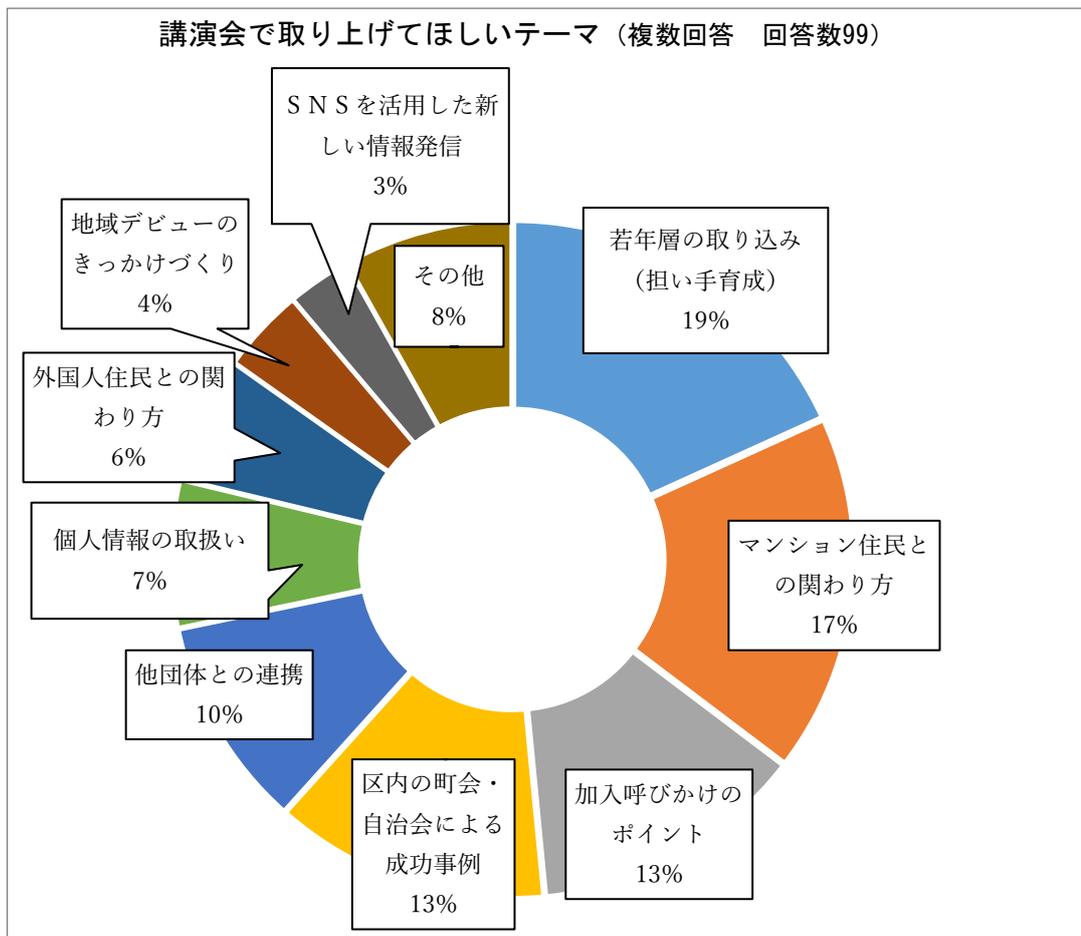
(3) 町会・自治会と若者との関係

町会・自治会向け講演会で取り上げてほしいテーマ

平成30年度に区が主催した町会・自治会向けの講演会参加者に対するアンケートにおいて、今後どのようなテーマの講演会を希望しているかを調査した結果、「若年層の取り込み」を挙げる意見の割合が最も多く、続いて「マンション住民との関わり方」、「加入呼びかけのポイント」と続いている。3項目の合計の割合が約半数を占めており、町会・自治会は、新たな担い手の確保に高い関心を寄せていることが伺える。

図表9 町会・自治会向け講演会で取り上げてほしいテーマ

* 町会・自治会向け講演会「新たな担い手を呼び込もう！」(2018年)参加者アンケート結果から作成

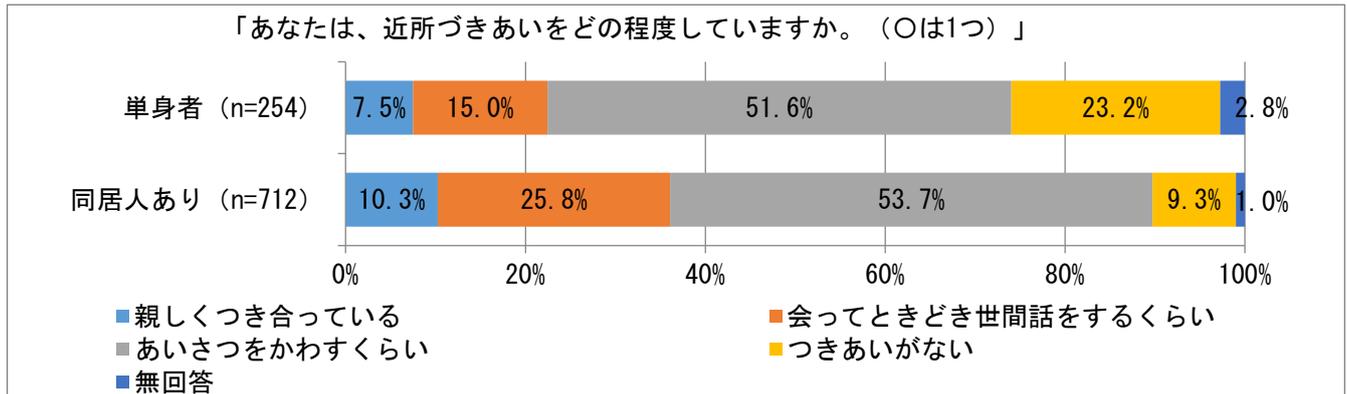


(4) 新宿区区民意識調査からみる単身者の生活状況

① 近所づきあいの程度

「単身者」の近所づきあいの程度は、「あいさつをかわすくらい」が 51.6%と最も多く、「親しくつきあっている」は 7.5%、「つきあいがない」は 23.2%となっており、「同居人あり」に比べると、近所づきあいの程度は低い。

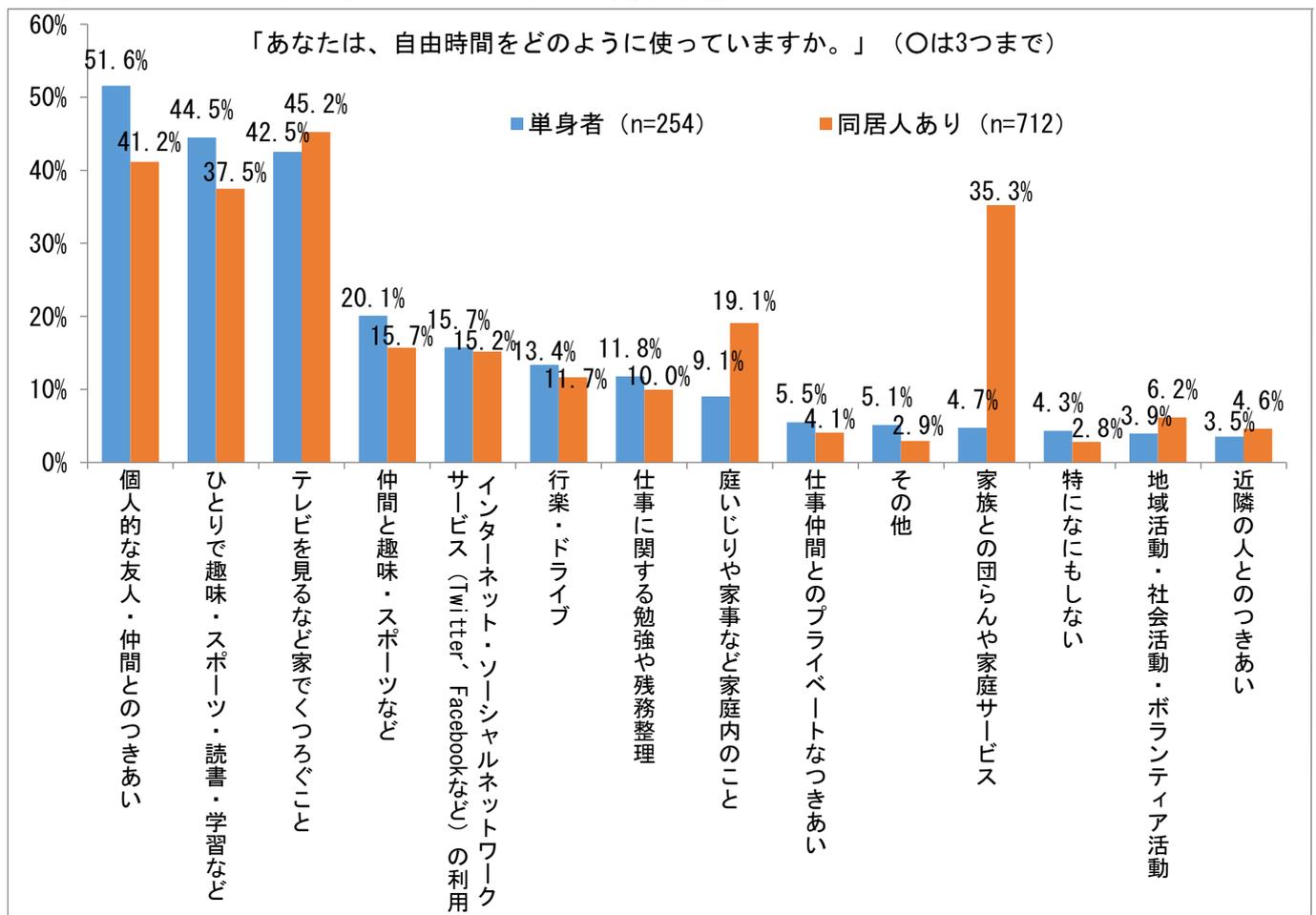
図表 10 近所づきあいの程度 (2013年新宿区区民意識調査)



② 自由時間の使い方

単身者をみると「個人的な友人・仲間とのつきあい」が最も高く（51.6%）、「ひとりで趣味・スポーツ・読書・学習など」（44.5%）、「テレビを見るなど家でくつろぐこと」（42.5%）が続く。これを同居人ありとの比較でみると、「個人的な友人・仲間とのつきあい」10.4ポイント、「ひとりで趣味・スポーツ・読書・学習など」は7.0ポイント高くなっている。

図表 11 自由時間の使い方（2013年新宿区区民意識調査）



2 しんじゅく若者意識調査と地域活動の経験のある学生に対する調査との比較分析

しんじゅく若者意識調査により、若者の区政への関心度は、「関心派」と「無関心派」の割合にあまり大きな差がないことが明らかになった。一方、「区政参加しない理由」及び「地域活動への参加をしない理由」の回答割合では、「時間がないから」に次いで、「参加する方法が分からないから」が多くの割合を占めていることが分かった。

また、新宿区内では、大学のゼミやサークル活動等を通じて地域で活躍している学生たちも存在する。そこで、地域活動の経験がある学生にしんじゅく若者意識調査と同一項目の調査やヒアリングを行い、しんじゅく若者意識調査の結果と比較して差があるのか否かの分析を行った結果、大きな差が見られないことが分かった。

なお、しんじゅく若者意識調査は「若者調査」（グラフ上は「青色」表記）、地域活動の経験のある学生に対する調査は「学生調査」（グラフ上は「橙色」表記）と表記する。

【調査の設計】

(1) 若者調査

- ① 調査の地域 新宿区全域
- ② 調査対象 新宿区在住の18歳～39歳の方
- ③ 有効回収数 200名
- ④ 調査方法 インターネット調査
- ⑤ 調査時期 平成30年6月

(2) 学生調査

- ① 調査の地域 新宿区全域
- ② 調査対象 早稲田大学、目白大学、宝塚大学の学生
- ③ 有効回収数 51名
- ④ 調査方法 アンケート調査
- ⑤ 調査時期 平成30年7月～12月

【調査結果の見方】

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入している。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基礎となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
なお、学生調査は、設問に未回答の者もいた。その旨は、設問ごとに示している。
- (3) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基礎として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
なお、学生調査は、単数回答を求めているが複数回答であった者、未回答であった者もいた。その旨は、設問ごとに示している。
- (4) 調査結果中「若Q4」は「しんじゅく若者意識調査のQ4」、「学Q4」は「学生調査のQ4」を示している。

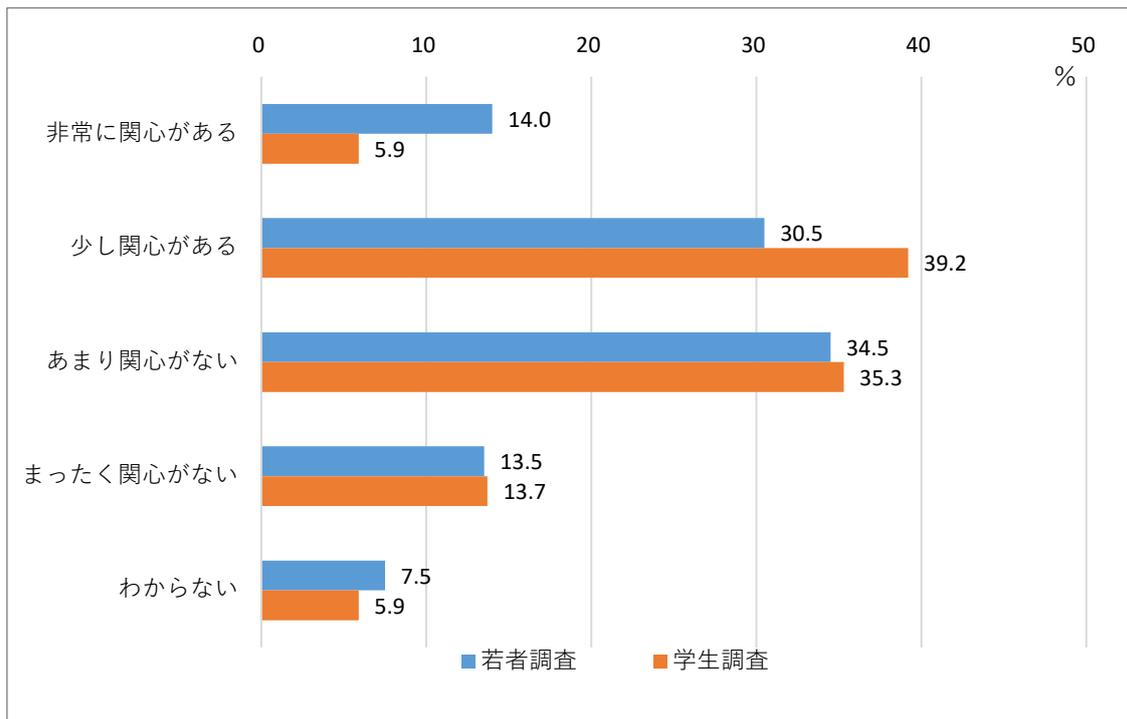
【調査結果】

(1) 区政への関心

① 区政への関心度（若 Q4・学 Q4）

区政への関心度は、区政に積極的に関心を示す「非常に関心がある」と「少し関心がある」をあわせた「関心派」は若者調査 44.5%、学生調査 45.1%となっている。また、「あまり関心がない」と「まったく関心がない」をあわせた「無関心派」は若者調査 48.0%、学生調査 49.0%となっており、両者の間で大きな差は見られなかった。

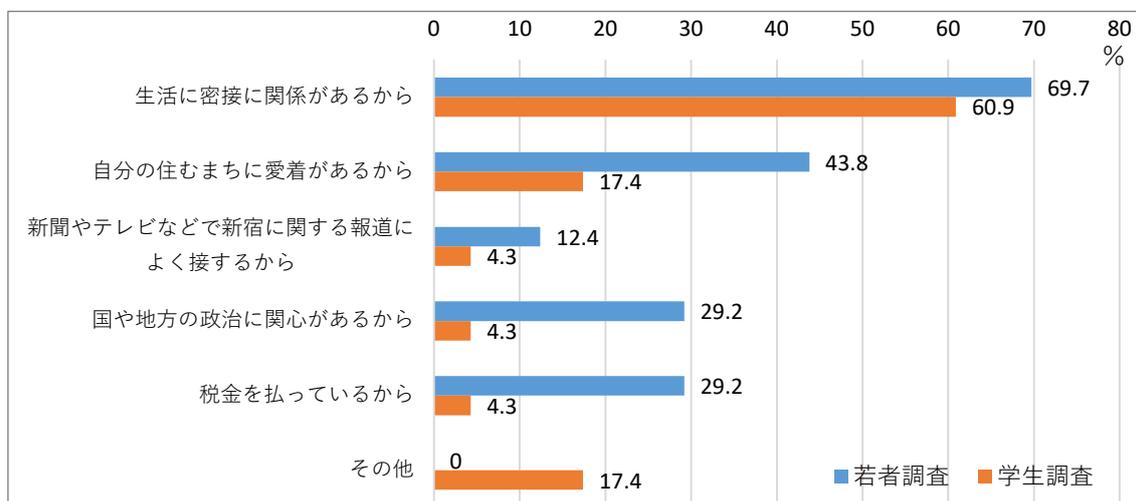
図表 12-1 区政への関心度（若者調査 n=200 学生調査 n=51）



② 区政に関心がある理由（若 Q5・学 Q5）

Q4で「関心派」と回答した人にその理由をたずねたところ、「生活に密接に関係があるから」が若者調査 69.7%、学生調査 60.9%でともに最も高く、以下ともに「自分の住むまちに愛着があるから」、「国や地方の政治に関心があるから」、「税金を払っているから」と続く。ここでも、若者調査と学生調査の差は見られなかった。

図表 12-2 区政に関心がある理由（若者調査 n=89 学生調査 n=23（いくつでも））



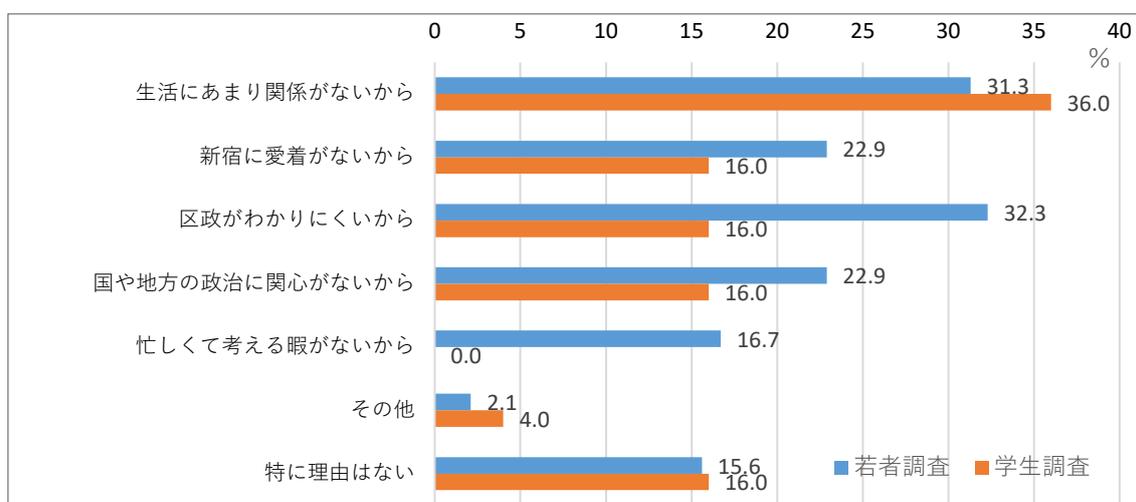
※ 学生調査で「その他」を回答した6名のうち4名から、以下のとおりの記載があった。

- 公務員になりたいと思っているから
- 生まれてからずっとその区に住んでいるから（江戸川区在住：補記）
- ボランティアや福祉的な取り組みが盛ん
- 大学のサークル活動と地域と深く関わるから

③ 区政に関心がない理由（若 Q6・学 Q6）

Q4で「無関心派」と回答した人にその理由をたずねたところ、「生活にあまり関係がないから」が若者調査 31.3%、学生調査 36.0%と、ともに大きな割合を占めている。

図表 12-3 区政に関心がない理由（若者調査 n=96 学生調査 n=25（いくつでも））



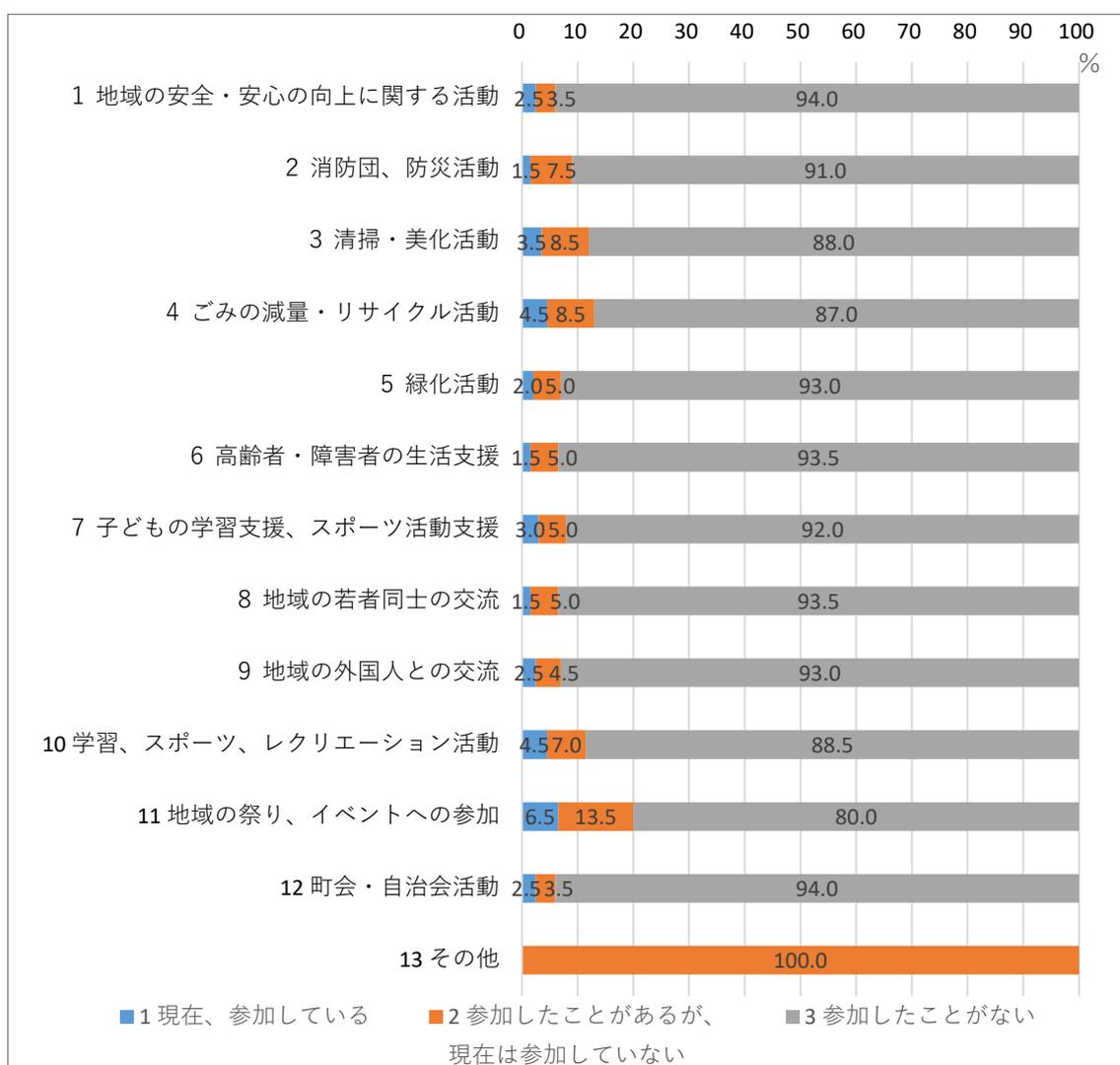
※ 学生調査：回答なし2名

(2) 地域活動への参加

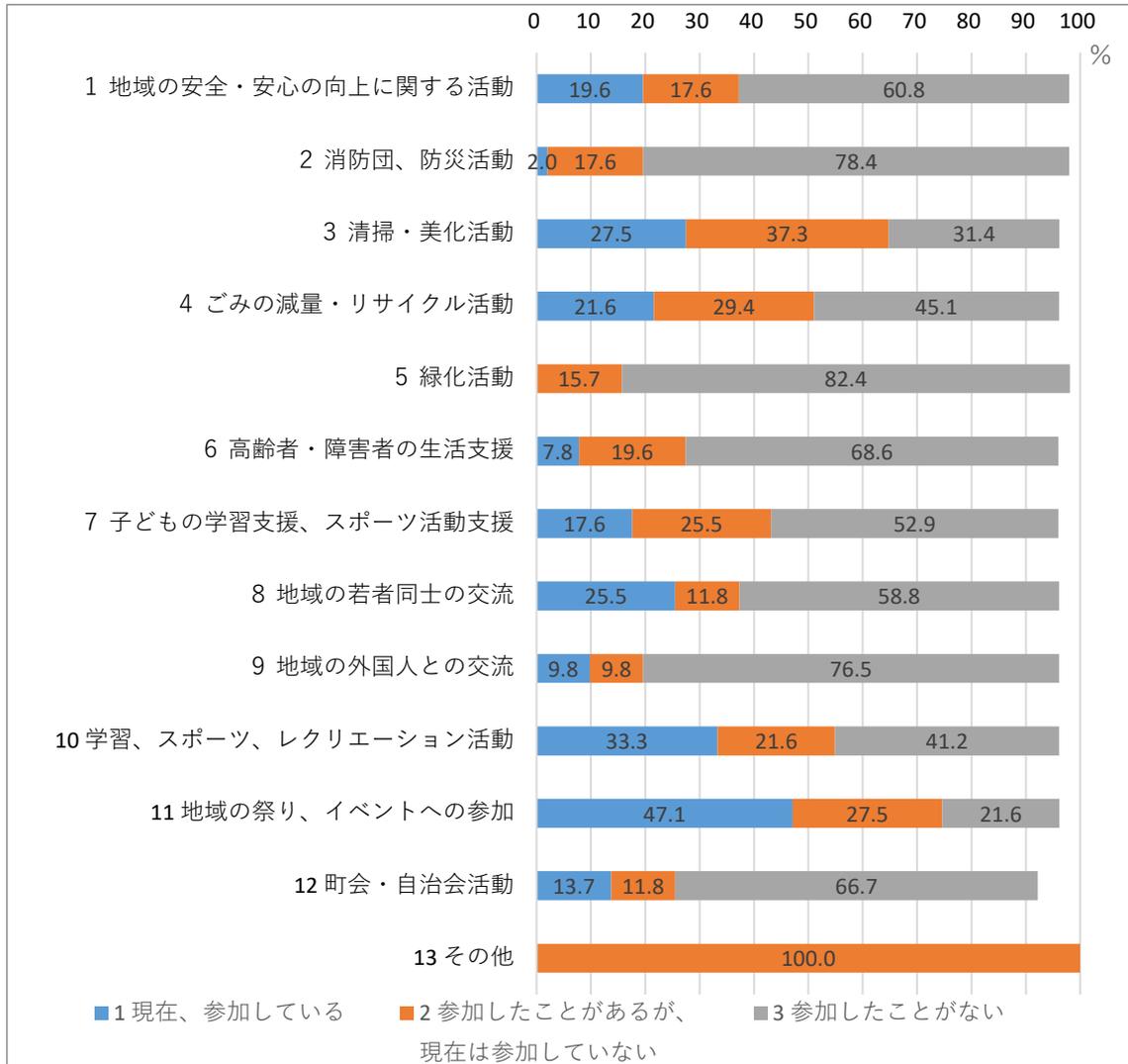
① 地域活動の参加経験（若 Q9・学 Q9）

地域活動への参加経験では、若者調査、学生調査ともに「地域の祭り、イベントへの参加」が20.0%、74.6%と最も多くなっている。以下、若者調査は「ごみの減量・リサイクル」13.0%、「清掃・美化」12.0%と続く。学生調査は「清掃・美化」64.8%、「学習、スポーツ、レクリエーション活動」54.9%と続く。地域活動の参加経験として「地域の祭り、イベントへの参加」、「清掃・美化」が上位になった。また、学生調査で3位になった「学習、スポーツ、レクリエーション活動」は、大学のサークルやゼミの活動を通じてこのような地域活動を行っていることから上位に入ったと考えられる。

図表 13-1 地域活動への参加経験（若者調査 n=200、その他 n=1（それぞれひとつずつ））



図表 13-2 地域活動への参加経験（学生調査 n=51、その他 n=1（それぞれひとつずつ））



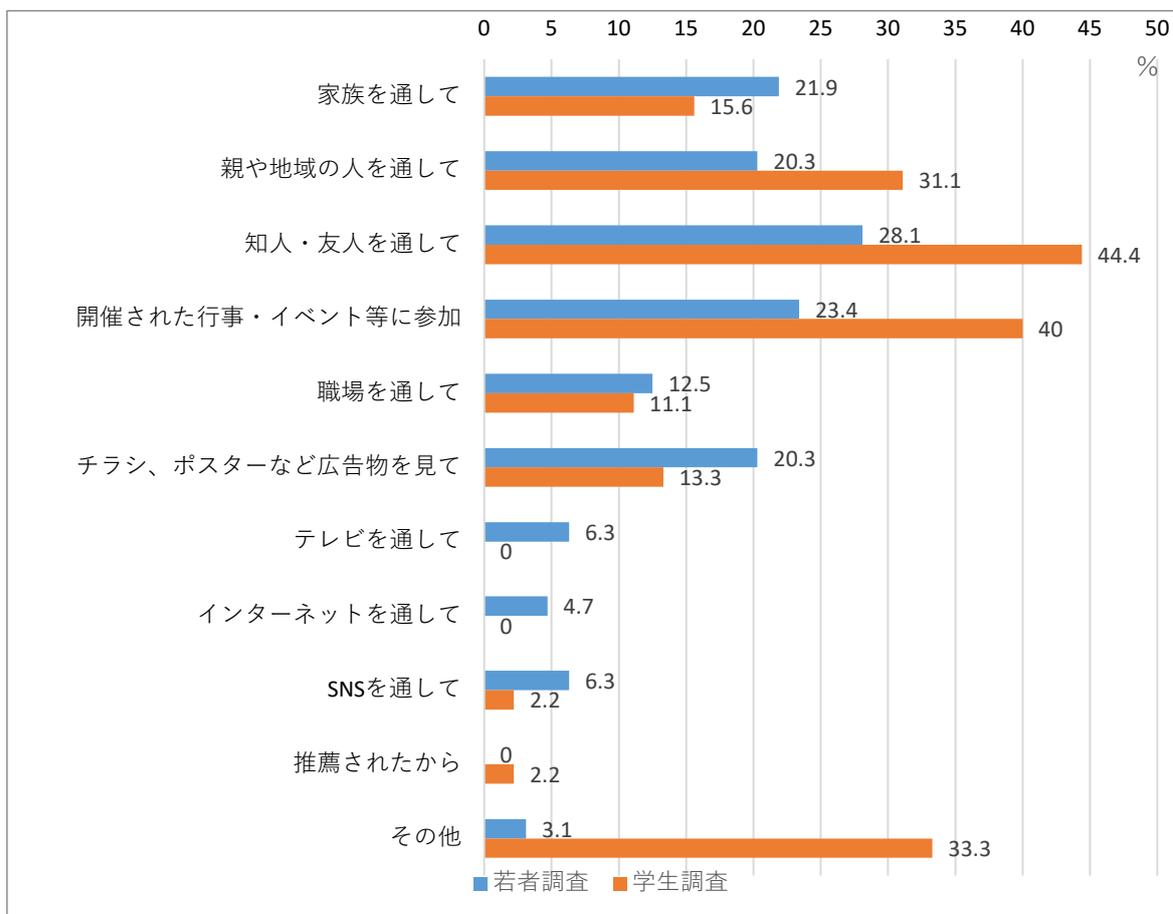
※ 学生調査：上記項目の未回答者

項目 1 : 1 名、項目 2 : 1 名、項目 3 : 2 名、項目 4 : 2 名、項目 5 : 1 名、項目 6 : 2 名
 項目 7 : 2 名、項目 8 : 2 名、項目 9 : 2 名、項目 10 : 2 名、項目 11 : 2 名、
 項目 12 : 4 名

② 地域活動参加のきっかけ（若 Q10・学 Q10）

Q9 で地域活動のいずれかに参加経験があると回答した人に、そのきっかけをたずねたところ、若者調査、学生調査ともに「知人・友人を通して」が 28.1%、44.4%と最も高く、以下「開催された行事・イベント等に参加」が 23.4%、40.0%と続く。また、「親や地域の人を通して」がそれぞれ 20.3%（4 位）、31.1%（3 位）となっている。地域活動参加のきっかけに関しては、若者調査と学生調査の間に大きな差は見られなかった。

図表 14 地域活動参加のきっかけ（若者調査 n=64、学生調査 n=45（いくつでも））



※ 学生調査：回答なし 1 名

※ 学生調査で「その他」を回答した 15 名から以下のとおりの記載があった。

サークル 6 名	興味があった 1 名
学校を通して 1 名	商店会の人とかかわりがあるから 1 名
大学のゼミ活動として 1 名	大学 2 名
学校や大学 1 名	大学の活動で 1 名
学校 1 名	

※ 学生調査で Q9 に地域活動のいずれかに参加経験があると回答した人に、「参加して得られたことがあったか」をたずねた結果は以下のとおり（自由回答）。（学 Q11）

- 達成感
- 地域住民との関わり方を学んだ
- 住んでいる地域の魅力を感じることができた
- コミュニティの広がり
- 地域の人とのつながり
- 縁
- 地域における人と人とのつながり、達成感
- 近所の人と知り合うことができた（補記：稲城市在住）
- 地域の方と知り合うことができた
- 地域の方とのつながり
- 友人とのつながり
- まちのイベントの運営方針を知れた
- 今まで関わりが無かった人と交流できました
- 地域の人たちとのつながり
- 社会というものに触れられた
- 他者との関りによる新たな考え方・価値観との出会い
- 地域の方々の理解
- オリンピックなど大きなプロジェクトに関わられて、ワクワクした
- 幅広い層（年齢など）の方と関わることで、人の生活について考えるようになった
- 地域の歴史を知れた
- 地域の理解（ここにお店があったなど）
- 都会のイメージだったが、地域の交流が深いことが分かってよかった
- 地域のことをよく知ることができた
- より深くその地域について知ることができた
- 意外とご家族連れ、とくに小さいお子さんが区に住んでいること（住宅街方面にうとい）
- 自分の小学校周辺は地域のつながりが強いなあと小学生ながらに思いました
（補記：練馬区在住）

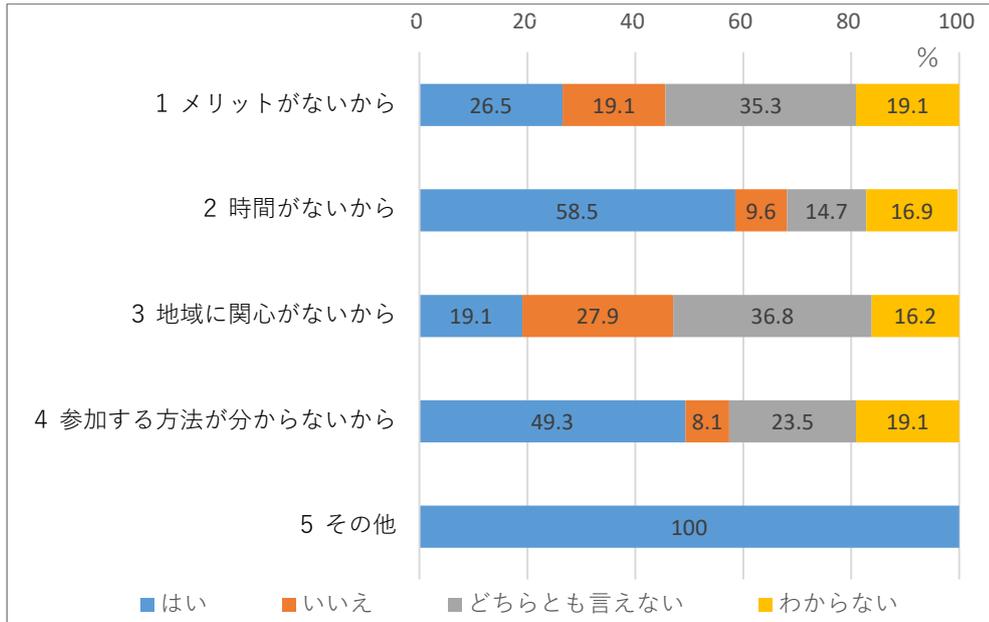
※ 学生調査で Q9 に地域活動のいずれかに参加経験があると回答した人に、「参加して大変だったこと・困ったことがあったか」をたずねた結果は以下のとおり（自由回答）。
（学 Q12）

- 学生は入っていきやすいが、そのブランドがなくなるとなかなか内部（商店会など）にもぐりこめない
- 今も機会があれば参加したいが、つながりやきっかけがない
- 知らない人と初めて関わる時、とまどいを感じた。年の離れた人とのコミュニケーションの取り方
- ちょっと変な方たちに絡まれること
- 事業の立ち上げ
- イベントを実施する際のまちの人との折衝
- 区の勝手がわからなかったりしました
- 地域の人に合わせた時間設定なので、朝早すぎて遠方からの参加が難しい
- 朝早いものは参加しづらい
- 特に大変だった思い出もなく、楽しく参加していました
- タバコのポイ捨てが目立ちました

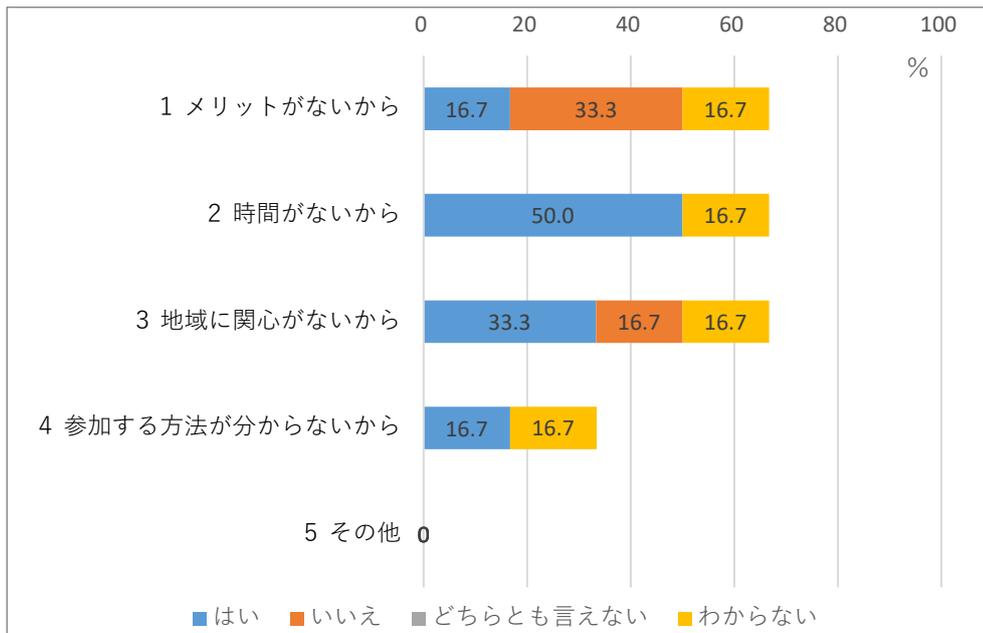
③ 地域活動に参加しない理由（若 Q12・学 Q16）

Q9 の 1～13 の地域活動のいずれにも参加したことがないと回答した人にその理由をたずねた。項目ごとに「はい」と回答した割合を見たところ、若者調査、学生調査ともに「時間がないから」が 58.5%、50.0%と最も高く、以下若者調査では「参加する方法が分からないから」が 49.3%と続く。また、学生調査では「地域に関心がないから」が 33.3%と続く。地域活動に参加しない理由の最も高いものは、共通しているが、2位では地域への関心の差が見られた。

図表 15-1 地域活動に参加しない理由（若者調査 n=136、その他 n=1（それぞれひとつずつ））



図表 15-2 地域活動に参加しない理由（学生調査 n=6（それぞれひとつずつ））



※ 学生調査：上記項目の未回答者

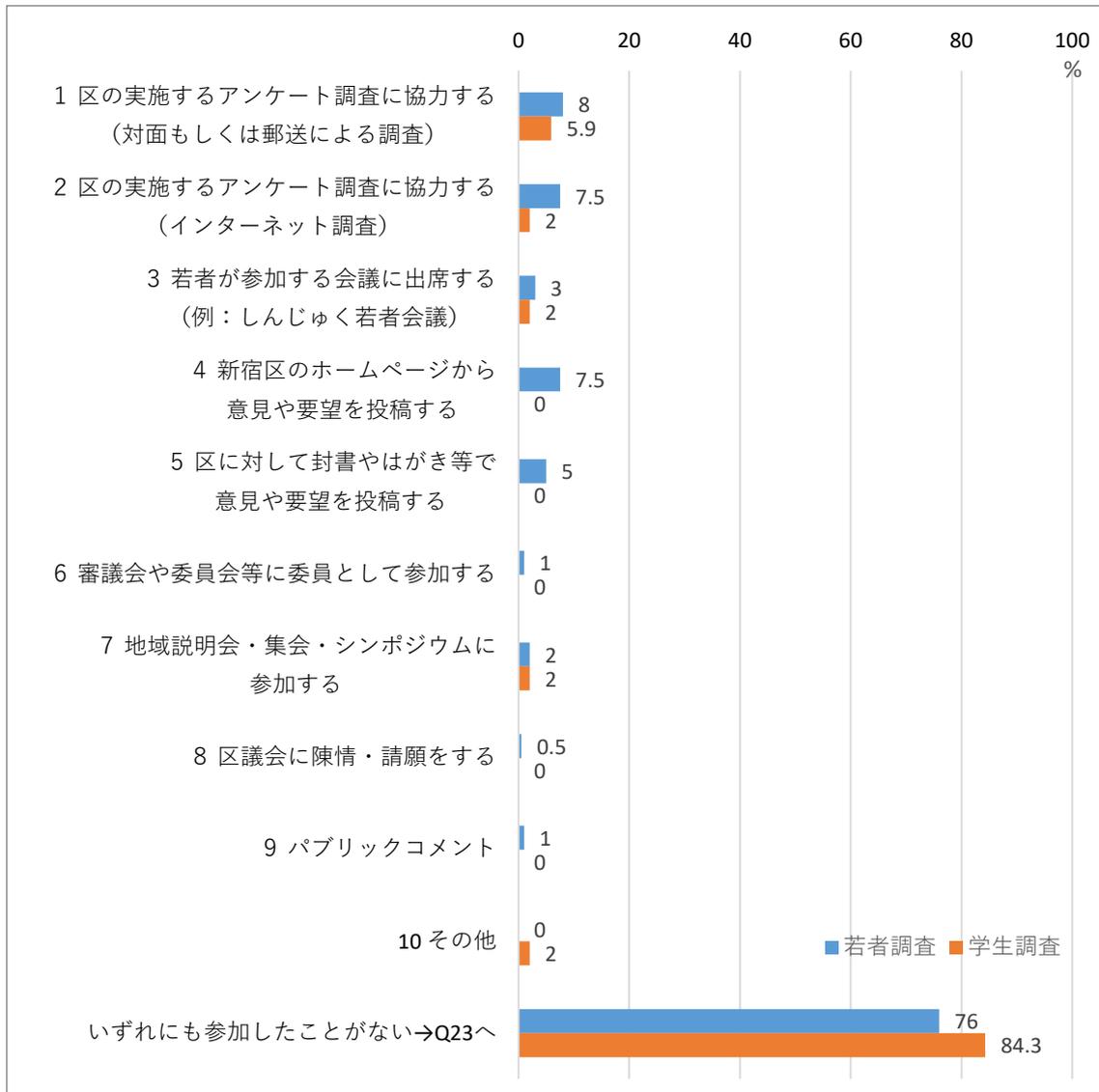
項目 1：2名、項目 2：2名、項目 3：2名、項目 4：4名

(3) 区政参加

① 区政参加の経験（若 Q13・学 Q18）

区政参加の経験では、「いずれにも参加したことがない」（若者調査：76.0%、学生調査：84.3%）を除くと、「区の実施するアンケート調査に協力する（対面もしくは郵送による調査）」が若者調査8.0%、学生調査5.9%と最も高く、以下「区の実施するアンケート調査に協力する（インターネット調査）」「新宿区のホームページから意見や要望を投稿する」がともに若者調査7.5%と続く。学生調査は、「区の実施するアンケート調査に協力する（インターネット調査）」「若者が参加する会議に出席する」「地域説明会・集会・シンポジウムに参加する」がともに2.0%と続く。

図表 16 区政参加の経験（若者調査 n=200、学生調査 n=51（3 つまで））

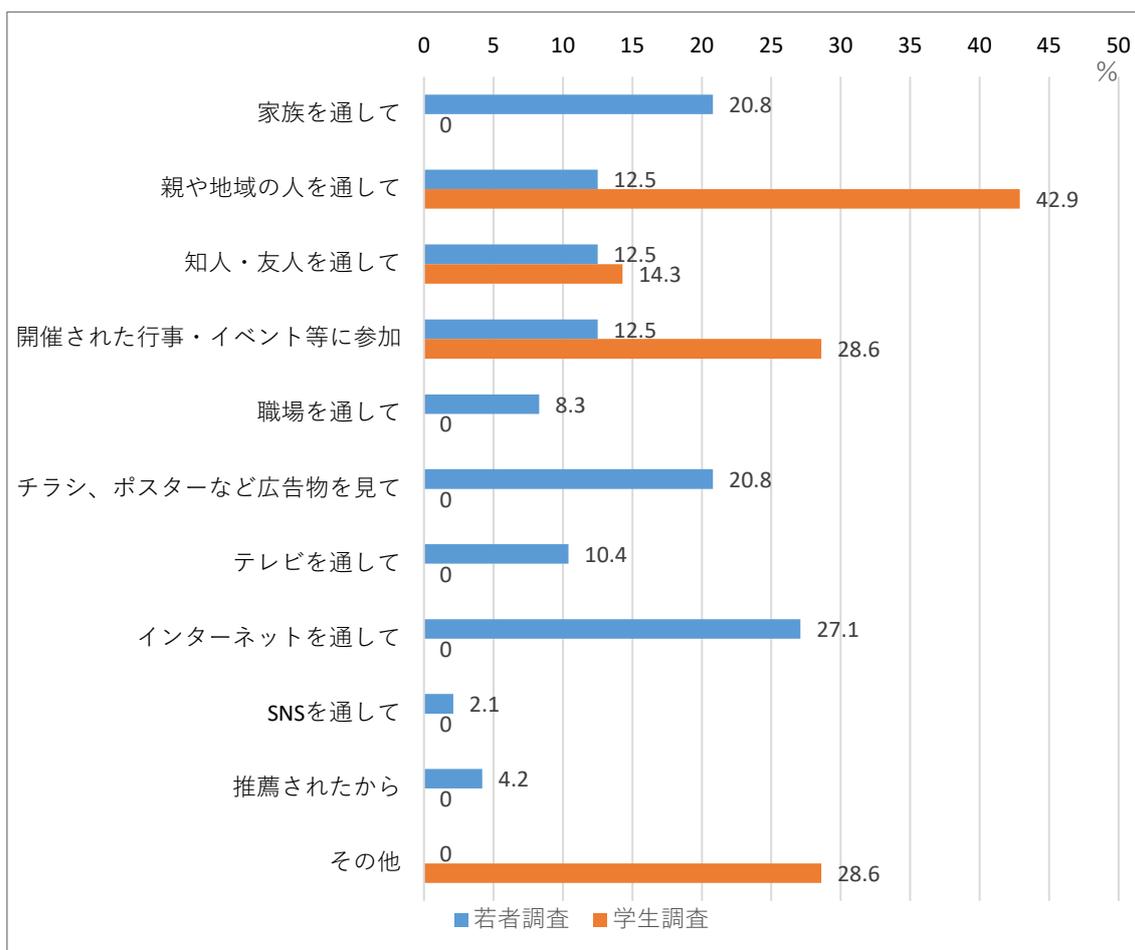


※ 学生調査：回答なし1名

② 区政参加のきっかけ（若 Q14・学 Q19）

Q13 で1～10 いずれかを利用または参加したと回答した人に、そのきっかけをたずねたところ、若者調査は、「インターネットを通して」が27.1%と最も高く、以下「家族を通して」「チラシ、ポスターなどの広告物を見て」がともに20.8%と続く。学生調査は、「親や地域の人を通して」が42.9%と最も高く、以下「開催された行事・イベント等に参加」「その他」と続く。

図表 17 区政参加のきっかけ（若者調査 n=48、学生調査 n=7（いくつでも））



※ 学生調査で Q13 に1～10 いずれかを利用または参加したと回答した人に、「参加して得られたことがあったか」をたずねた結果は以下のとおり（自由回答）。（学 Q20）

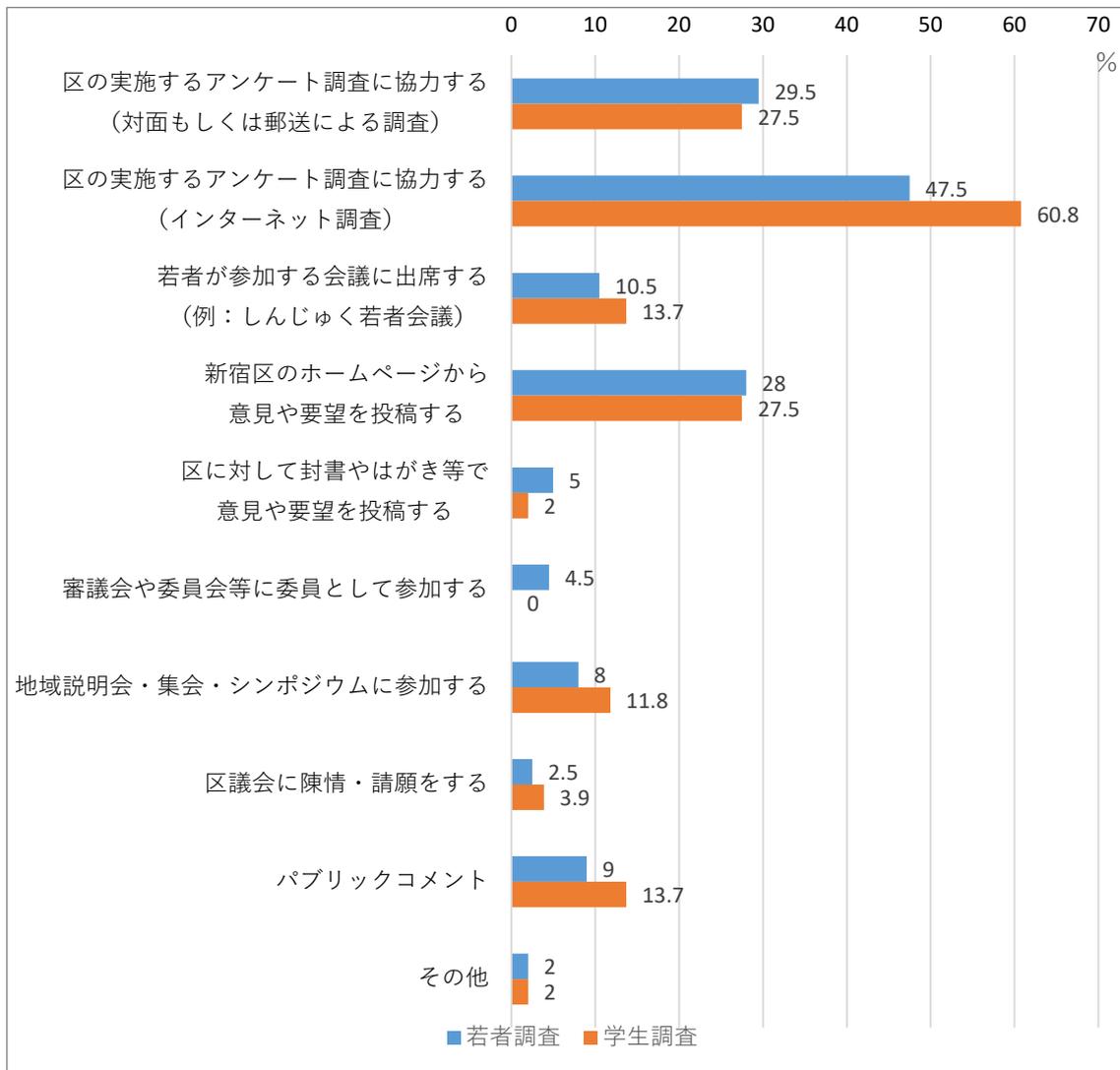
- アンケートに答えただけなので
- その地域に住んでいる人の要望
- 区政に少しでも関われたと感じた

※ 学生調査で Q13 に1～10 いずれかを利用または参加したと回答した人に、参加して大変だったこと・困ったことがあったか」（自由回答）をたずねたが回答はなかった。（学 Q21）

③ 区政参加の希望（若 Q15・学 Q24）

区に対し意見や提案を表明する区政参加の方法の希望では、「区の実施するアンケート調査に協力する（インターネット調査）」が若者調査 47.5%、学生調査 60.8%とともに最も高く、以下若者調査では「区の実施するアンケート調査に協力する（対面もしくは郵送による調査）」29.5%、「新宿区のホームページから意見や要望を投稿する」28.0%と続く。学生調査では「新宿区のホームページから意見や要望を投稿する」「区の実施するアンケート調査に協力する（対面もしくは郵送による調査）」ともに27.5%と続く。上位3位までの項目については、若者調査と学生調査で大きな差は見られなかった。

図表 18 区政参加の希望（若者調査 n=200、学生調査 n=51（3 つまで））

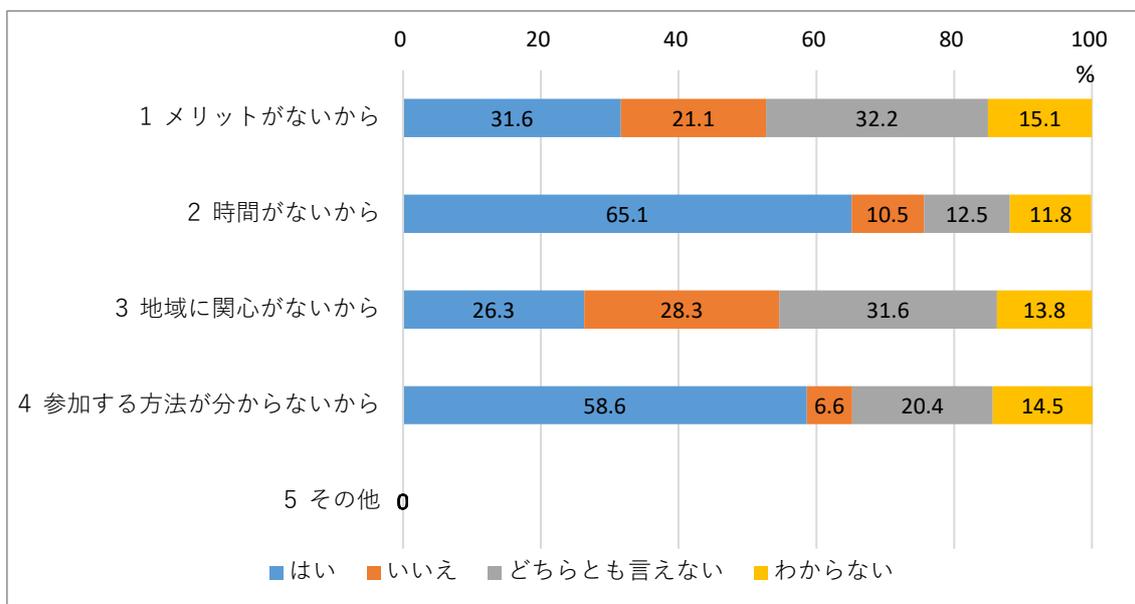


※ 学生調査：回答なし4名

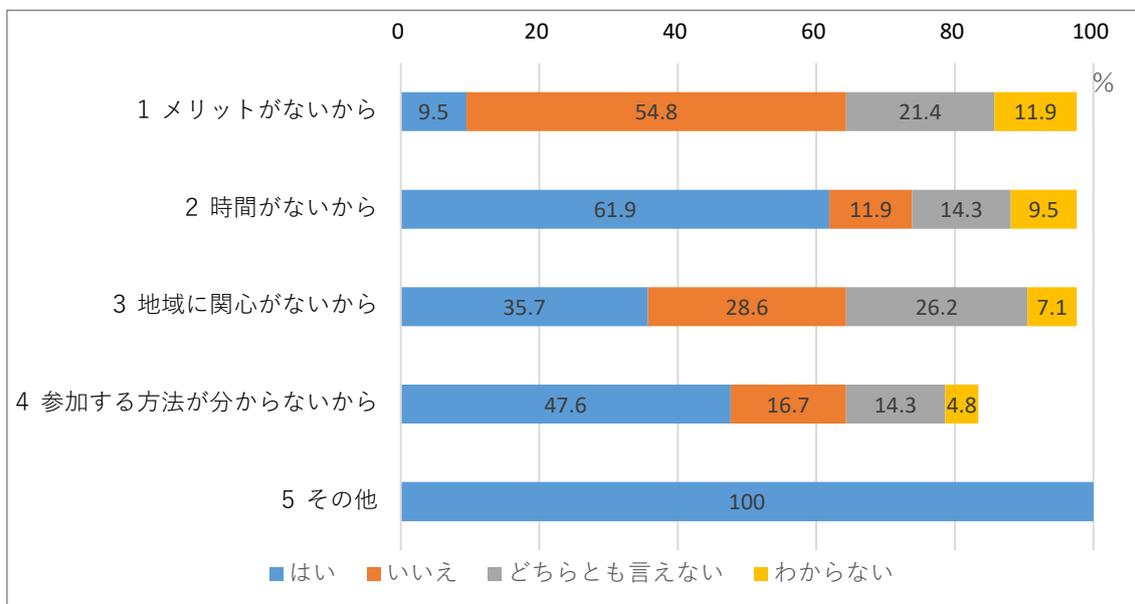
④ 区政参加をしない理由（若 Q16・学 Q23）

若 Q13 で「いずれにも参加したことがない」と回答した人にその理由をたずねた。項目ごとに「はい」と回答した割合を見たところ、若者調査、学生調査ともに「時間がないから」が 65.1%、61.9%と最も高く、以下若者調査、学生調査ともに「参加する方法が分からないから」58.6%、47.6%と続く。上位 2 位までの項目については、若者調査と学生調査で大きな差は見られなかった。

図表 19-1 区政参加をしない理由（若者調査 n=152（それぞれひとつずつ））



図表 19-2 区政参加をしない理由（学生調査 n=42、その他 n=2（それぞれひとつずつ））



※ 学生調査：上記項目の未回答者

項目 1：1名、項目 2：1名、項目 3：1名、項目 4：7名

(4) 地域活動への参加、区政参加について区に期待すること

「若者の地域活動への参加、区政参加を広げるために、区に力を入れて取り組んでほしいこと」をたずねた結果は以下のとおり。(自由回答) (学 Q25)

- Under□□の講演会、ワークショップの開催
- 若者の地域活動の支援
- 大学と組んで街を盛り上げる活動
- 各大学への協力要請等
- 地域住民の交流
- 若者とお年寄りと区政の人との交流会の実施
- 学生と地域とのつながりをもっと広げたい
- 区内のメディアで取り上げて欲しい (取材、PR など)
- イベントの広報
- 夜間の治安維持
- 西武新宿線沿線の開発に力を入れて欲しい
- 金銭支援等

3 区内における若者の地域活動参加にかかる実態調査（ヒアリング等）

第1章で述べたとおり、今回の研究を行うにあたり、若者の区政参加や地域活動への参加に関するデータが少ないことが大きな課題となった。また、若者の地域活動に焦点を当てた研究資料等も十分ではなかった。こうした状況の中、PTでの議論の中で、区内において実際に地域活動に関わっている方々にヒアリング等を行うことが重要であるとの方針を打ち出し、実態調査を行った。

(1) ヒアリング等の日程及び対象等

No.	日程	対象等
1	平成30年7月7日	早稲田大学周辺商店連合会運営理事会へ参加 (早稲田大学の学生との定例打ち合わせ会)
2	平成30年7月8日	目白大学人間福祉学科の学生が主催する「認知症カフェ」 「だんらん喫茶」訪問及びヒアリング
3	平成30年7月10日・ 19日	宝塚大学東京メディア芸術学部 学生等ヒアリング
4	平成30年8月7日	アトム通貨実行委員会 早稲田・高田馬場支部事務局 学生ヒアリング
5	平成30年9月6日	早稲田大学公認サークル まっちワークグループ早稲田 学生ヒアリング
6	平成30年10月23日	早稲田大学周辺商店連合会会長ヒアリング
7	平成30年12月14日	学習院女子大学 学生等ヒアリング

(2) ヒアリングまとめ

ヒアリングをした学生は、地域活動に対する意識が特別高いといった様子もなく、学校の課題などを通して、興味を持ったといった様子であった。

また、それぞれの学生が地域活動に携わるいきさつからは、①本人に興味がある→②活動に誘われるなどのきっかけ→③大学、サークルなど活動の母体となる組織がある→④母体組織を通して地域に馴染む→⑤気が付くと地域に愛着がわき、地域活動に定着するという流れがうかがわれた。

このような形で地域活動を行っている学生は、自身の強み（スキル）を活かした活動を通して地域の人に感謝されたり、コミュニケーション能力や企画力を向上させたりするなどのメリットを感じていた。

なお、活動を継続するに当たっては、活動に対する参加者それぞれの意識の差を踏まえ、可能な範囲で活動していく、といった柔軟な姿勢が大切だと分かった。

受け入れる地域の側も、学生に対して活動の担い手としての過度な期待をせず、「お互いにできることをやってほしい」というバランスの取れた状態が、よい関係が続けられるポイントになるようであった。

※ ヒアリング結果詳細については、資料編（P.51～62）に掲載

4 若者関係事業の実施状況調査結果

若者の区政参加を研究するにあたり、区側の受け入れ体制等がどのようになっているか実態を把握する必要があるとP Tの議論の中で意見が出た。そこで、新宿自治創造研究所担当課が全部署に対して「若者関係事業の実施状況調査」を行った。

本調査において、若者関係事業とは、若者（18歳から39歳までの者）に関する事業としている。若者のみを対象とした事業に限らず、事業の中で若者への助成や支援、働き掛け、調査、参加・加入促進などの取組を行っているものも対象とした。したがって、本研究の対象範囲よりも調査対象は広がっている。

なお、調査対象年度は、①平成30年度以降に実施又は実施予定の事業及び②平成29年度以前に終了した事業とした。

(1) 調査結果

① 事業総数

29事業

② 事業の目的による分類

29の若者関係事業を、その事業の主たる目的により以下の3つに分類した。

ア) 参加 9事業 (31.0%)

若者がその事業への参加をすることを目的としている事業

イ) 実態把握 1事業 (3.4%)

若者の実態を把握することを目的としている事業

ウ) 支援・啓発 19事業 (65.5%)

若者や若者を受け入れる団体等を支援すること、または、若者に対して啓発することを目的としている事業

(2) 調査結果まとめ

全部署で若者に関する事業総数は29事業であり、その事業を主たる目的別に見ると、「支援・啓発」が全体の65.5%で最も多かった。以下、「参加」が31.0%と続く。

※ 若者関係事業の実施状況調査結果詳細（若者関係事業一覧）については、資料編（P. 63～72）に掲載

第3章 現状分析のまとめと課題

第1節 現状分析のまとめ

新宿区の人口は、男女とも18歳までの人口が非常に少なく、20代で極めて多くなっている（P. 3 図表 1-1、図表 1-2）。これは、大学進学や就職等で他自治体から人口が流入する活発な人口移動とそれによる社会増加が要因となっており、新宿区は、全国に比べると若者の人口構成比が高い。こうした若者の一部は、自身の強みを活かして地域で活躍している一方で、若者調査によれば、若者は区政に一定程度の関心を持っているものの、実際の活動に結び付いていないことが明らかになっている（P. 14 図表 12-1、P. 16 図表 13-1、P. 22 図表 16）。

一方で、地域活動の中心的な役割を担っている町会・自治会が高い関心を寄せる内容として、「若年層の取り込み」を挙げる割合が最も高かった（P. 10 図表 9）。

これらのことから、区の人口構成におけるボリュームゾーンである若者と、その力を必要としている既存団体のマッチングが円滑に行われておらず、若者の力を区政に活かしきれていない状況であると言える。

第2節 若者の地域活動参加に向けた課題

1 区政参加・地域活動参加へのきっかけの少なさ

(1) 具体的な課題

① 地域で活動する若者の存在

本研究におけるヒアリングでは、地域活動を行っている多くの若者の存在を確認した。こうした若者は一部であるとはいえ、彼らは自身の強み（スキルなど）を活かした活動を展開することで、経験値を上げて成長につなげるとともに、関わった区民もその恩恵を受けるという、いわばwin-winの関係性が形成されていた（P. 51～62）。

彼らに「参加して得られたことがあったか」と尋ね、自由意見を求めた結果として、「達成感」「社会というものに触れられた」という回答が得られた。一方で、「困ったことがあったか」という問いには、「今も機会があれば参加したいが、つながりやきっかけがない」「学生は入っていきやすいが、そのブランドがなくなるとなかなか内部（商店会など）にもぐりこめない」という意見があり（P. 20）、活動のきっかけやつながりなどを作るにあたり、後ろ盾となる組織や団体の必要性がうかがえる。

若者は、こうした組織や団体に所属している間はよいが、卒業等により所属しなく

なった際にその恩恵を受けることが難しくなるという課題がある。

若者の安定的な活動継続を支援するためにも、区は後ろ盾となる組織や団体のような環境を得られるようにするとともに、こうした活動が一部にとどまらず、広がっていくようなしくみづくりを行う必要がある。

② 若者が活動に結び付かない現状

①で掲げたような地域で活躍する若者は一部であり、若者調査からは、若者は区政に一定程度の関心を持っているものの、実際の活動に結び付いていないことが明らかになった（P. 14 図表 12-1、P. 16 図表 13-1、P. 22 図表 16）。この理由として「区政がわかりにくい」ことに加え、区政参加や地域活動参加の「時間がないから」「参加する方法が分からないから」といったことが挙げられている（P. 15 図表 12-3、P. 21 図表 15-1、図表 15-2、P. 25 図表 19-1、図表 19-2）。若者は、それぞれ学業やアルバイト、仕事あるいは子育てに割く時間が優先されるため、区政参加・地域活動参加ができる環境を作り出すことが難しいと考えられる。

一方で、①で掲げた地域で活躍する若者は、活動を行うことによるメリット（就職活動に役立つことや、自身のスキルを活かせること等）を感じて活動を継続していた。しかし、「地域活動を始めたきっかけは、大学の教授が作ってくれた」という発言があった（P. 52）ように、きっかけを得て活動を始めなければ、活動によるメリットを実感することは難しい。

なお、若者調査と学生調査の比較（P. 13）やヒアリング調査結果（P. 51～62）から、両者の特性には大きな差がみられないことも明らかになっている。そのため、きっかけさえあれば、若者は地域活動に参加する可能性があると言える。

区は、区政について知ってもらうとともに、時間がない中でも区政や地域活動に参加でき、メリットを共有・実感できるようなしくみづくりを行う必要がある。

(2) 区が取り組むべき方向性

若者が区政や地域活動に参加するきっかけを作るとともに、参加するメリットをより共有・実感できるしくみを構築することによって、若者が区政や地域活動に参加する環境を整えていく必要がある。

2 若者の地域活動を推進する上でのノウハウの少なさ

(1) 具体的な課題

① 若者の取り込みを求める既存団体

若者の区政参加・地域活動参加の「活動の場」について目を向けると、代表的な地

域活動である町会・自治会が抱える課題として、「若年層の取り込み」を挙げる割合が最も高く、新たな担い手の確保に高い関心を寄せていることがうかがえる (P. 10 図表 9)。このため、町会・自治会をはじめとする地域の既存団体が、若者の参加を得て安定的な活動を継続できるしくみづくりが必要である。

② 若者が地域活動を行う上でのお互いの理解の必要性

学生調査において地域活動のいずれかに参加経験があると回答した人に「困ったことがあったか」と尋ねたところ、「朝早いものは参加しづらい」「知らない人と初めて関わる時、とまどいを感じた。年の離れた人とのコミュニケーションの取り方が分からない」という意見があった (P. 20)。

また、神奈川県相模原市が発行した「まちづくりのトリセツ～若者がまちづくりに参加するために大切なこと～」によれば、「若者と地域と一緒に地域活動を行うことは『異文化交流』であり、異なる文化や環境で生活してきた者同士が交流するときと同じように、お互いの考え方などを丁寧に伝え合うことの重要性」が述べられている。

このことから、若者が地域活動に参加する際に、若者のノウハウがないことに加え、受け入れる側も若者のニーズや特性を把握できていないことが課題であると考えられる。

(2) 区が取り組むべき方向性

若者が地域活動に参加する上で、また、地域（具体的には、町会・自治会等の既存の団体）が若者を受け入れる上で、お互いに配慮すべき点などについて知ることができる環境づくりを進める必要がある。

3 単身者の地域との関係性の希薄さ

(1) 具体的な課題

① 単身者の地域とのつながり

新宿区の単身世帯は一般世帯の 6 割強、人口の 4 割弱を占めており、今後も増加する見込みとなっている。これは、全国に比べて世帯割合で約 2 倍、人口割合で約 3 倍高くなっている (P. 4 図表 3、P. 5 図表 4)。若年期についてみれば、男性で約 6 割、女性で約 5 割が単身世帯である (P. 6 図表 5-1)。

単身者の地域とのつながりについて見てみると、近所づきあいの程度について、「つきあいが無い」と答えた割合は同居人ありで 9.3%に対し、単身者は 23.2%と、大きな開きがある (P. 11 図表 10)。また、若者に限らないが、単身者の自由時間の使い方として、友人・仲間とのつきあいだけでなく、一人で過ごす人が多く、地域活動

等を行う人の割合は、同居人がいる場合（6.2％）に比べ、単身者は3.9％と低い状況にあり（P. 12 図表 11）、単身者が同居人ありに比べ、地域とのつながりが薄いことが課題である。

② 単身者の生涯未婚率と居住期間

新宿区の生涯未婚率は上昇傾向が続いており、今後も上昇することが想定されている（P. 8 図表 7-1、P. 9 図表 7-2）。また、20 年以上区内に居住する者の生涯未婚率は 50.0％と、居住年数を加味しない場合の生涯未婚率 31.9％に比べて高い（P. 9 図表 8）。このことから、若い頃から区内に住んでいる壮年期の方の生涯未婚率が比較的高いと考えられる。

特に、単身者は、年齢が上がるとともに新宿区での居住期間が長くなる傾向にある。若年期では流動性が高く、居住期間が短いものの、年齢が上がるとともに居住期間が長くなり、定住化の傾向が強まっていく（P. 8 図表 6）。

こうした層は、地域との関係がないまま壮年期、高齢期を迎えてしまう可能性が高いが、若いうちから地域とのつながりを持つことによって、区に愛着を持って定住してくれる層であるとも言える。そのため、単身者でも区政参加や地域活動参加がしやすくなるようなしくみづくりが必要である。

(2) 区が取り組むべき方向性

単身者がいきいきと暮らし続けられるよう、若いうちから地域とのつながりを持ち、壮年期・高齢期を迎えた後も活躍できるようなしくみづくりを行う必要がある。

第4章 政策提案

第1節 提案する政策の方向性

第3章で課題に対する区の取り組みの方向性として、「若者が区政及び地域活動に参加するきっかけをつくるとともに、参加するメリットを共有・実感できるしくみを構築する」、「若者が地域活動に参加する上で、また地域の既存団体が若者を受け入れる上でのノウハウを知ることができる環境を整える」、「若いうちから地域とのつながりを持ち、将来的にも地域で活躍できるようなしくみをつくる」の3点を述べた。

これを具体的に進めるため、「区政参加」「地域活動参加」の2つの切り口からそれぞれ政策を提案する。

第2節 提案する政策

政策1 「若者参加による事業PR ～区政参加の足掛かり～」

1 趣旨

若者が区政または地域活動に抵抗なく参加できる機会をつくり、興味や関心を引き出すとともに、区の事業、ひいては区政のPRにつなげるものである。

前章で述べたとおり、若者は区政に一定程度の関心を持っているものの、「参加方法が分からない」等の理由から、実際の活動に結び付いていない実態がある。他方、単身者の自由時間の使い方として、「個人的な友人・仲間とのつきあい」が半数強を占めているという実態がある。

これを踏まえ、まずは参加しやすく、楽しめ、意識せずとも区政や地域に参加できる機会を提供する。こうした取り組みを通じて、区政に参加する若者同士のつながりをつくり、それを足掛かりに区政または地域活動への参加を広げていく。

2 主な対象

事業に関心のある若者全般

後述するように、各部の事業にプラスするものであるため、ターゲットにすべき層（年齢層、単身か否か、親子参加か等）は事業によって様々である。よって、政策全体の対象は、若者全般と広く設定する。

また、若者が地域を限定せず活動していることを鑑み、新宿区または新宿区の地域資源等に関心があれば参加できるものとし、区内在住・在勤・在学であることは原則、条件に

しない。

3 内容・効果

新宿区の魅力（例：都市空間、繁華街、文化芸術、歴史…）や既存の区事業を切り口にした継続的なイベント活動を実施し、楽しみながら意識せずとも区政に参加してもらうとともに、事業PRにつなげる。

従来、お祭り等のイベントに来てもらうことで、区の施策等をアピールして関心を持ってもらうという手法がある。本提案は、施策アピールに加えて、「つながりをつくる」という点も目的に加え、規模の小さなイベントを継続的に実施するものである。新宿区の魅力（と区が推しているもの、または地域資源）等をイベントの題材にすることで、楽しみながら区政に参加することができる。

4 事業の形態

各部で行われている事業の一環またはプラスする形で実施する。また、継続して実施する中で、参加者自らが情報発信の担い手になる機会も設けることでPR効果を高めることもできる。

例) 参加者のポータルサイトとしてSNSを利用してもらうことで、気軽にシェア等による発信ができるような環境を整える。

情報発信の際は、#（ハッシュタグ）と事業名等をつけて個別のSNSで発信してもらう。これにより、事業の情報を収集しやすくなり、拡散効果が高まる。

5 事業の例

(1) 新宿景観×Instagram



- ・新宿区の景観を被写体にした写真を撮影し、Instagram（SNS）で共有する。
- ・プロ写真家やインスタグラマーによるミニ講座も実施する。
- ・事業を通じてつながった参加者同士で、グループ撮影会等自主企画も実施できるようにする。
- ・共有された写真の中から、広報資料への掲載、大型ビジョン等での映写、展示会等への利用など、二次使用・水平展開を図っていく。

これにより、区の景観に対する意識啓発や景観保全へのPRにつなげる。

(2) パラスポーツ・VSフェス



- ・パラスポーツに関心のある若者がチームをつくり、多種目での対抗戦イベントを行う。
- ・本戦に至るまでの練習会、練習試合、交流会を通じて、パラスポーツをきっかけにした参加者のつながりをつくる。
- ・コミュニティ・スポーツ大会と連携することで、地域参加のきっかけにも資する

これにより、パラスポーツを楽しみながら、パラリンピックへの機運醸成、障害者理解の啓発につなげる。

(3) 新宿漱石ホームズ



- ・夏目漱石または文豪ファンが漱石ゆかりの地を探訪したり、漱石山房記念館を楽しむ活動を展開する。
- ・「謎解きゲーム」等グループで楽しめるイベントにより、漱石をきっかけとした仲間をつくっていく。
- ・記念館のブックカフェを利用した小規模イベントを継続実施し、参加者のつながりをつくっていく。
例 読書会、ティーパーティー、ファッションショー、落語会
- ・ゆくゆくは施設を使った活動やイベント開催へもつなげていく。

これにより、漱石山房記念館をきっかけに、区の文化発信に寄与する。

6 推進計画

基本的に各部の事業に追加する形をとる。当初は総合政策部が中心となって、3ヵ年かけて庁内全体に広がるよう推進し、各部で実施できるようにする。

	1年目	2年目	3年目
総合政策部	・モデル事業を選定 (3事業程度)	① モデル実施した3事業の評価及び本格実施に向けた助言 ② 事業実績等から把握した興味、関心、ニーズの整理 ③ ②について、全庁に情報提供・共有	① 前年度実施した1事業の評価及び事業拡大に向けた助言 ② 事業実績等から把握した興味、関心、ニーズの整理(継続) ③ ②について、全庁に情報提供・共有(継続)
各部	・モデル事業の実施	① モデル実施した3事業の評価 ② 総合政策部の助言を受けた、本格実施の準備 ③ 各部で1事業を選定し、実施	① 前年度実施した1事業の評価及び事業拡大の検討 ② 各部1事業を選定し、実施(継続) ③ さらに実施可能な事業を選定

政策2 「プラットフォームの設立と活動 ～地域活動参加の促進～」

1 趣旨

学生をはじめとする若者が地域活動に参加するメリットを用意するとともに、後ろ盾を提供し、積極的に地域活動に参加できるよう後押しするものである。

調査の結果、学生が地域活動に参加する秘訣は「メリットがある」「後ろ盾がある」「少々の強制力がある」ことであると推察された。これらは指導教授をはじめ、大学（または公認サークル）という組織が担保していた。つまり、大学の組織体制（地域連携担当部署の有無、ノウハウの多寡等）、指導教授との巡り合わせ（地域活動等を推進する教授に師事するか等）によって、関心のある学生でも地域活動等に参加するきっかけを得られていない可能性もある。

こうしたことから、若者が地域活動等に参加するきっかけを増やし、参加を広げるため、区が「後ろ盾となる組織」を設立し、それをプラットフォームにして学生をはじめとする若者のメリットを積極的に提供していく。

政策2 プラットフォームの設立と活動 ①分析結果から



2 主な対象

- ・地域活動等に参加する意欲のある若者
- ・若者を活動に受け入れたい地域の団体
- ・若者を地域活動に参加させたい大学、専門学校、専修学校
- ・若者の地域活動参加に関心のある企業、団体等

3 内容・効果

若者の地域活動参加を推進するプラットフォームとなる、区のオフィシャル組織「(仮称) マツリ」を設立し、それを基盤に若者の地域活動参加を促進する様々な活動を進めるものである。イメージとしては「JK課」(福井県鯖江市)、「ラーメン課」(山形県南陽市)のように、組織規則による区役所の部署ではなく、区が支援する任意団体である。

若者の地域参加を広げるためには、「きっかけ」「後ろ盾」を入手でき、「少々の強制力(後押し)」がある環境が必要である。そこで、区がそうした環境を整え、提供していく。具体的には、大学等、受け入れを希望する地域団体(町会・自治会、商店会等)、関心のある企業、NPO等を構成員とする任意団体を設立し、区の若者施策の実行組織として機能させていく。

若者はこの組織に加入することで、指導教授を問わず、地域活動に参加するきっかけや以下に掲げるメリットを享受できる。また、地域の団体は、活動に若者を受け入れる上でのノウハウ共有やマッチング等のメリットを享受できる。

4 プラットフォームの形態等

(1) 名称

『(仮称) マツリ』

- ・「祭り」「政(まつりごと)」をかけたもの
- ・「祭り」からは「地域の誰もが参加でき、力を発揮したり、単純に楽しむなど、みんなで盛り上げるエネルギーに満ちた場」という意味合いを、「政」からは区政の政の音をとった。

(2) 構成員

学生をはじめとする若者、区、大学、専門学校、専修学校、町会・自治会、商店会、区内企業、NPO団体等

(3) 運営体制

ア 意思決定機関(合議制)

- ・区長をトップとする構成員代表者による会議体
- ・プラットフォームの活動計画、予算・決算等を決定する

イ 事務局

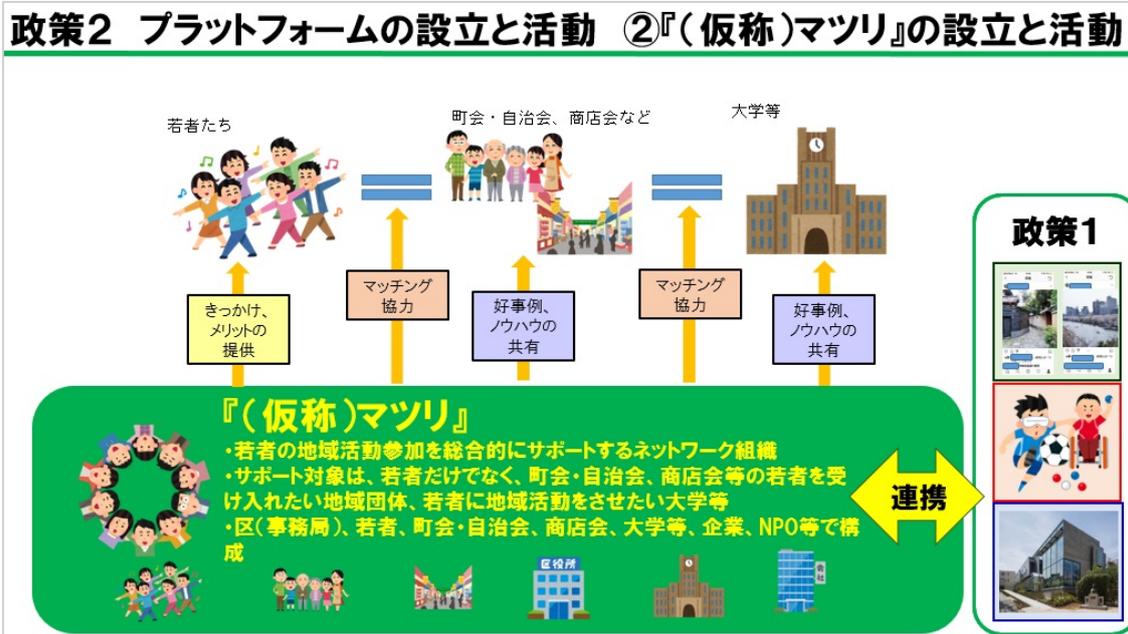
- ・意思決定機関の決定を受けて、各種調整、事務処理を行う
- ・区職員を中心に、構成員からの従事も募る

ウ ボランティア(有償)

- ・事務局とともに、各種調整、事務処理を行う
- ・『(仮称) マツリ』に参加する若者から募るとともに、関心があれば年齢を問わず従事できるものとする

エ 参加者

- ・以下に掲げるメリットを受けながら、地域活動に参加していく
- ・地域活動のほか、『(仮称) マツリ』内の有志活動にも参加できる



(4) 活動内容

ア メリット（サービス）の提供

(ア) 大学等の組織へ提供すること

- ① 各大学等の組織に蓄積されたノウハウ（他大学での地域活動事例等）の共有
- ② スムーズな活動展開が図れるよう、庁内関係部署及び関係行政機関との仲介（例：施設利用、各種届出・申請支援、後援名義、広報）
- ③ メンバーとなった区内企業及びNPO等、多様な人材・組織との交流

(イ) 若者へ提供するもの

- ① 対外的な信用の証とするため、『(仮称) マツリ』の名刺発行（肩書・所属等を記載）
- ② 大学等が進める活動のほか、『(仮称) マツリ』内での有志活動（若者自ら企画・考案したもの等）の支援
- ③ 就職・転職活動等対外的に様々に使えるよう、活動実績をまとめた証明書や表彰状の発行
- ④ プロボノ登録、マッチング
（IT、広報、事業評価、コンサルタントなど地域活動に活用できるスキルを持つ場合に登録でき、スキルを求める地域団体等とのマッチングを受けることができる）

もの)

⑤ 「しんじゅく若者会議」への優先参加

⑥ 庁内関係部署及び関係行政機関との調整支援

(スムーズな活動展開が図れるよう、事務局が仲介役を果たす。例：施設利用、各種届出・申請支援、後援名義、広報)

⑦ メンバーとなった区内企業及びNPO等、多様な人材・組織との交流

イ 施策1「若者参加による事業PR ～区政参加の足掛かり～」との連携

「新宿区の魅力」を題材にした継続的なイベント事業(コミュニティ活動)の情報をメンバーへ提供し、参加を促す(各事業の実施主体は、各部)。

ウ 若者と地域活動とのマッチング

地域活動に興味のある若者から具体的にどんな場/機会なら参加しやすいか、若者に参加してほしい地域から具体的にどんな活動に参加してほしいか、をそれぞれヒアリングし意向をマッチさせる。

また、お互いの考え方や配慮すべき点等を理解し合い、円滑に地域活動参加ができるようにするための取り組みも行う。

例：地域活動に熱心な若者との対話会

エ 地域団体等への好事例・ノウハウの情報提供及び意識醸成

事例のある大学等、地域団体から情報収集し、関心はあるがノウハウのない大学等または地域団体へ提供する。

例：大学等による地域活動事例の紹介、「若者を受け入れるために」という趣旨の講座開催、若者とともに活動を展開している地域の事例集配布・動画配信、若者が行うイベントへの参加促進

オ 調査・研究、PR、各種調整など

理念の共有、メリットの説明、メンバーズ登録の勧奨、運営への参加依頼、学生への声かけ・周知依頼、庁内及び地域のニーズ調査(若者の力を必要としている事業や活動の調査)など

5 推進計画

総合政策部が中心となり、メンバーとともに、3期・6カ年で段階的に推進していく。

	第1期（1～2年目） 【モデル実施】	第2期（3～4年目） 【設立、本格実施】	第3期（5～6年目） 【安定稼働、活動拡大】
組織 整備	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局設立（区役所内） ・「しんじゅく若者会議」での協議、委員選出 ・事例を持つ大学等、地域団体、NPO、企業などに声掛け、委員選出⇒準備委員会設立 ・メンバーズ登録の勧奨 	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局活動  ・『(仮称) マツリ』の設立  ・運営体制の確立、稼働  ・関心のある大学等、地域団体、NPO、企業などへの声掛け  	
メリッ トの提 供	<ul style="list-style-type: none"> ・名刺発行 ・庁内または関係行政機関との仲介・折衝 ・「しんじゅく若者会議」への優先参加 ・構成団体、メンバー同士の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・表彰状または証明書の発行  ・有志活動の支援 ・プロボノ活動の支援 ・マッチング協力 ・施策1との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 

	第1期 (1~2年目) 【モデル実施】	第2期 (3~4年目) 【設立、本格実施】	第3期 (5~6年目) 【安定稼働、活動拡大】
PR、意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体向け「若者参加」をテーマにした講座開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学等による地域活動事例の紹介 ・地域活動に熱心な若者との対話会 	<ul style="list-style-type: none"> ・若者とともに活動を展開している地域の事例集配布、動画配信 ・若者が行うイベントへの参加促進
調査・研究	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に需要のあるプロボノの調査 ・表彰状または証明書の作成準備 ・有志活動の支援（企画調整など） ・庁内及び地域のニーズ調査 		

～おわりに～

本PTにおいて、具体的な課題検討を進めていく中で、若者の区政参加・地域参加に関する統計データはほとんどなく、若者の区政参加・地域参加の実態については、他の自治体で行われている個別事例の情報収集により把握する状況であった。

こうした中、基礎的自治体である区の職員として、まずは地域の実態を把握することから始める、といった方針を打ち出し研究を進めた。本報告書は、地域活動を行う若者や、若者と共に活動する地域の方々の実態とデータ分析の二つの視点から課題を抽出し、取りまとめたものである。

本PTでは、若者が活動するプラットフォームづくりを施策提案している。こうしたプラットフォームを提案したのは、若者が年を重ねながら区政や地域に関わり続けられる環境を整えることで、やがてはすべての世代を取り込んだ活動の場となってほしいという期待も込めている。

今回の研究では、区の職員として、地域の実態を把握すること、また、データ分析から課題を読み取ることの重要性を再認識することとなった。今後も、この経験を活かし、区民が自分らしくいきいきと暮らせるまちづくりに力を尽くしていきたい。

資料編

資料1 学生調査アンケート調査票

資料2 ヒアリング調査結果

資料3 若者関係事業一覧

資料1 学生調査アンケート調査票

(平成30年度「若年層の区政参加・地域活動への参加」に関するアンケート)

新宿区「政策形成PT」では、今年度、若年層の意見の区政への反映や地域コミュニティの活性化などを目指し、若年層の区政参加・地域活動への参加を推進するための研究を行っています。

研究の参考にさせていただきたいため、以下のアンケートにご協力をお願いいたします。

Q1 新宿区に住んで何年になりますか。

- 1. 1年未満
- 2. 1年以上3年未満
- 3. 3年以上5年未満
- 4. 5年以上10年未満
- 5. 10年以上20年未満
- 6. 20年以上30年未満
- 7. 30年以上
- 8. 現在は新宿区に住んでいない →現在お住まいの区市町村名をお書きください。(区・市) →Q4へ

Q2 【Q1で1～7と回答した人にお伺いします】

あなたは、これからも新宿区に住み続けたいですか。

- 1. ずっと住み続けたい →Q4へ
- 2. できれば住み続けたい →Q4へ
- 3. できたら区外へ転出したい →Q3へ
- 4. すぐにも転出したい →Q3へ
- 5. わからない →Q4へ

Q3 【Q2で3または4と回答した人にお伺いします。】

あなたが新宿区以外に住みたい理由は何ですか。(3つまで)

- 1. 現在の住居が狭いから
- 2. 自宅の建替えや修繕ができないから
- 3. 家賃・地代が高いから
- 4. 固定資産税・相続税が高いから
- 5. 住まい周辺の環境が悪いから
- 6. 震災対策の面で不安だから
- 7. 近隣の住民(友人・知人)が減り、生活が不安だから
- 8. 子どもの教育環境が悪いから
- 9. 自営の商売が成り立たないから
- 10. 他の区市町村に住んでいる親族と同居するため
- 11. 転勤・就職・通学のため
- 12. 物価が高く生活しにくいから
- 13. 社宅だから
- 14. その他()

Q4 あなたは区政にどのくらい関心がありますか。

- 1. 非常に関心がある →Q5へ
- 2. 少し関心がある →Q5へ
- 3. あまり関心がない →Q6へ
- 4. まったく関心がない →Q6へ
- 5. わからない →Q7へ

Q5 【Q4で1または2と回答した人にお伺いします。】

あなたが区政に関心があるのは、どのような理由からですか。

→Q7へ

- 1. 生活に密接に関係があるから
- 2. 自分の住むまちに愛着があるから
- 3. 新聞やテレビなどで新宿に関する報道によく接するから
- 4. 国や地方の政治に関心があるから
- 5. 税金を払っているから
- 6. その他()

Q6 【Q4で3または4と回答した人にお伺いします。】

あなたが区政に関心がないのはどのような理由からですか。

- 1. 生活にあまり関係がないから
- 2. 新宿に愛着がないから
- 3. 区政がわかりにくいから
- 4. 国や地方の政治に関心がないから
- 5. 忙しくて考える暇がないから
- 6. その他()
- 7. 特に理由はない

Q7 あなたは区の行政サービスに関する情報をどこから得ていますか (3つまで)

- 1. 広報しんじゅく
- 2. 区の刊行物
- 3. 掲示板や回覧板
- 4. テレビ (ケーブルテレビなど)
- 5. 区公式ホームページやTwitter・Facebook
- 6. 区役所や特別出張所などの窓口
- 7. 町会役員や民生委員など
- 8. 家族・親族
- 9. 近所の人
- 10. 友人・知人
- 11. その他()
- 12. 情報を得ていない

Q8 あなたが区に力を入れて取り組んで欲しいと思うものは何ですか (3つまで)

- 1. 青少年の健全育成
- 2. 学校教育の充実
- 3. 子育て支援 (少子化対策)
- 4. 児童福祉の充実
- 5. 高齢者福祉の充実
- 6. 心身障害者福祉の充実
- 7. ひとり親家庭への支援
- 8. 低所得者への支援
- 9. 区民の健康増進
- 10. 生涯学習・スポーツの推進
- 11. 文化と芸術の振興・歴史の継承
- 12. ホームレス対策
- 13. 騒音対策
- 14. 環境美化対策
- 15. ごみ減量・リサイクル推進
- 16. 緑化の推進・公園の整備
- 17. 地球温暖化対策

Q11 【Q9で1つでも1または2と回答した人にお伺いします。】

Q9で選択した地域活動に参加して、得られたことがありましたらお聞かせください。（自由回答）

Q12 【Q9で1つでも1または2と回答した人にお伺いします。】

Q9で選択した地域活動に参加して、大変だったこと・困ったことがありましたらお聞かせください。（自由回答）

Q13 【Q9で1つでも1または2と回答した人にお伺いします。】

Q9で選択した地域活動に参加したことを友人等に知らせましたか（SNSへの投稿も含みます）。

- 1. はい→Q14へ
- 2. いいえ→Q15へ

Q14 【Q13で1と回答した人にお伺いします。】

どのような方法で知らせましたか。 →Q17へ

- 1. 口頭で
- 2. SNSへの投稿で
- 3. その他（ ）

Q15 【Q13で2と回答した人にお伺いします。】

Q9で選択した地域活動に参加したことを今後、友人等に知らせたいですか（SNSへの投稿も含みます）。→Q17へ

- 1. はい
- 2. いいえ

Q16 【Q9で1および2のいずれにも回答しなかった人にお伺いします。】

地域活動の経験がない方にうかがいます。参加しない理由は何ですか。

次の1～4の理由について、1～4のあてはまるものを選んでください（それぞれ1つ）

1～4以外の理由がある場合は、「5.その他」に記入してください。

1 はい	2 いいえ	3 どちらとも 言えない	4 わからない

- 1. メリットがないから
- 2. 時間がないから
- 3. 地域に関心がないから
- 4. 参加する方法が分からないから
- 5. その他（ ）

Q17 あなたが今後、自分の住んでいる地域のために取り組みたい地域活動は次のうちどれですか。（3つまで）

- 1. 地域の安全・安心の向上に関する活動
- 2. 消防団、防災活動
- 3. 清掃・美化活動
- 4. ごみの減量・リサイクル活動
- 5. 緑化活動
- 6. 高齢者・障害者の生活支援
- 7. 子どもの学習支援、スポーツ活動支援
- 8. 地域の若者同士の交流
- 9. 地域の外国人との交流
- 10. 学習、スポーツ、レクリエーション活動

Q23 【Q18で11と回答した人にお伺いします。】

区政参加の経験がない方にうかがいます。参加しない理由は何ですか。

次の1～4の理由について、1～4のあてはまるものを選んでください（それぞれ1つ）

1～4以外の理由がある場合は、「5.その他」に記入してください。

1 はい	2 いいえ	3 どちらとも 言えない	4 わからない

1. メリットがないから
2. 時間がないから
3. 区政に関心がないから
4. 参加する方法が分からないから
5. その他（ ）

Q24 区に対し意見や提案を表明する区政参加の方法のうち、今後、どの方法を利用したい又は参加したいと思いますか。

（3つまで）

- 1. 区の実施するアンケート調査に協力する（対面もしくは郵送による調査）
- 2. 区の実施するアンケート調査に協力する（インターネット調査）
- 3. 若者が参加する会議に出席する（例：しんじゅく若者会議）
- 4. 新宿区のホームページから意見や要望を投稿する
- 5. 区に対して封書やはがき等で意見や要望を投稿する
- 6. 審議会や委員会等に委員として参加する
- 7. 地域説明会・集会・シンポジウムに参加する
- 8. 区議会に陳情・請願をする
- 9. パブリックコメント（計画案等を事前に公表して区民から意見等を募り、それに対する区の考え方を公表する制度）
- 10. その他（ ）

Q25 〔地域活動参加、区民参加について区に期待すること〕

若者の地域活動参加、区政参加を広げるため、区に力を入れて取り組んでほしいことはありますか。

ご意見をお聞かせください。（自由回答）

資料2 ヒアリング調査結果

① 大学の教授等からの声かけ、ゼミ等をきっかけにした地域活動に参加した学生

項目	発言
<p>どんな区政参加／地域活動をしているか</p>	<p>ハイジアやみるっく（西口大ガード）での展示、各種ワークショップの運営、地域まつりや障害者福祉センターまつりでの出展（クロマキー合成体験）に参加している。地域活動の参加歴は1年くらいになる。</p>
	<p>各種ポスター、フライヤー等のデザインを担っている。地区協議会の季刊誌にも携わり、まちの皆さんがクライアントだったので、打合せから入った。地域活動の参加歴は、同じく1年くらいになる。</p>
	<p>在学生とともに、地元地域の活動や障害者福祉センターまつり等を中心に参加している。</p>
	<p>学生が選んだ「おすすめ本」を区立中央図書館へ企画展示するもの。</p>
	<p>ゼミの学生が主体となり、地域住民を対象とした「認知症カフェ」を実施している。</p>
<p>区政／地域活動に参加した感想、得られたもの、感じたメリット</p>	<p>活動を行うことで、自分のコミュニケーションスキルが向上した。また、イベント企画などを通して、社会人として必要な実務能力が身についた。自分の成長につながった。</p>
	<p>机上の勉強だけではなく、想像だけではない実体験ができる。</p>
	<p>実際のイベント会場で、自分の描いた絵の感想をもらったり、小さな子たちが純粋に喜んでくれたりと普段できない経験ができた。人の役に立っているという実感も得られた。</p>
	<p>地区協議会季刊誌のデザインは打合せから参加して、クライアント（地域住民）の意思を汲み取って提案をするという実践的な経験ができ、実社会で役に立つスキルが身についたと思う。最終的にいい提案ができてよかった。</p>
	<p>家族がきっかけとは言え、当初は疑念を持たれていた。ただ、1つ成功すると次第に認められ、活動継続につながっていった。</p>
	<p>地域まつりに初めてクロマキー体験を出展した際、30分待ちの列となり喜ばれた。その実績を生かして障害者福祉センターまつりにも出展し、同様に人気を博した。</p>

項目	発言
区政／地域活動に参加した感想、得られたもの、感じたメリット	<p>まつりに参加して3年目となり、地域に段々知られていき、まつり全体のディレクションを依頼されるようになった。地域の方々と徐々に話をつめていき、各種調整や工夫をして盛り上げることができた（例：個別ブースを大部屋にまとめることで、来客者の流れがスムーズになった）。</p>
	<p>自分たちは技術や作品を提供し、地域はそれの発表の場を提供するというスタイルができた。</p>
	<p>障害者福祉センターまつりを経験することで、色々な障害（上下肢、視覚、聴覚その他）に適したデザインを考えるきっかけもできた。</p>
	<p>活動の積み重ねから徐々に地域の方と顔見知りになり、地区協議会季刊誌の制作も任されるようになった。当初は従来のデザインを踏襲したもの、その次からは学生のアイデアを生かしてデザインを一新する等、地域の仲間入りができた。</p>
	<p>平成30年の企画展示では21タイトルを選定したが、すべて借りてもらえたことに効果を感じ、貴重な経験になった。「読んでもらった」という反応を得られて、やりがいを感じた。当初は不安もあったが、やってみたら楽しく、意外とできるものだと感じた。</p>
	<p>地域貢献についての意識は多少持っているが、さほど高いわけではないと思っている。また、楽しみながら活動することで地域貢献になるなら、お得だとも感じる。</p>
	<p>就職活動でアピールすることができる。</p>
区政／地域活動に参加したきっかけ	<p>地域活動を始めたきっかけは、大学の教授が作ってくれた。</p>
	<p>友人からの声掛けで始めた。最初は特に積極的ではなかったが、続けるうちに、楽しくなってきたので続けている。また、友人と活動するので、簡単には止められない。</p>
	<p>「クロマキーをやるのに、背景を描いて」と先輩に頼まれたのがきっかけ。その後、「せっかくだから、イベントの現場も見てみない？」と言われ、興味があったので行った。</p>
	<p>先輩から声をかけられたのがきっかけ。</p>

項目	発言
区政／地域活動に参加したきっかけ	<p>在学時に教授から声をかけられ、新宿クリエイターズ・フェスタに協力したのがきっかけだった。卒業後はグラフィックデザイン会社に就職したが、仕事が忙しく、自分のつくったモノへの反応も分からない状態だった。そんな中、在学時の教授から再び声をかけられ、教務助手として地域活動に参加するようになった。</p>
	<p>在学時に教授から声をかけられ、新宿クリエイターズ・フェスタに協力したのがベースになっている。その後就職したが、仕事が忙しくてやりがいを感じられず、在学していた大学に戻って助手をすることとした。そんな中、家族から、地域まつりへの出展や協力を頼まれた。</p>
	<p>大学図書館の発案に、学生（図書館と学生の共同団体）が企画化した。前段として、書店への企画展示を行っており、次のステップとして地域貢献を考えたもの。</p>
活動基盤（組織）	<p>大学図書館と学生との共同団体が活動基盤。こうした共同団体は、他の大学数か所でもみられ、中には活動認定証を発行しているところもある。また、大学図書館との共同団体なので、大学の看板が後ろ盾となる。</p>
地域活動を続けられるモチベーション	<p>地域まつりでは、絵を見たときの反応が子ども各々で違う。楽しみ方がそれぞれだと感じて、面白い。障害者福祉センターまつりでは、「こんな体験したかった！」と喜ばれた。</p>
	<p>もともとモノづくりを志向していたので、自分の提案にいい反応をもらえてうれしい。</p>
	<p>地域活動の中で自分のデザイン等を届けることで、反応がみられ、成果を感じている。地域活動自体をととても楽しめている。</p>
	<p>「地域をよりクリエイティブにするには」をテーマに研究活動もしており、地域活動もそれに資するものとなっている。</p>
	<p>モチベーションとしては、①次第に大きなことを任されるようになり、自分のスキルアップになっていること、②地域で顔見知りになり、道であいさつされる等してうれしい、③一緒に活動している学部生の成長がみられること、である。</p>
<p>楽しくするための工夫として、仲間たちの興味のあることをリサーチするようにしている。また、就活に役立つと思うと、モチベーションになる。</p>	

項目	発言
地域活動を続けられるモチベーション	<p>みんなとやっているのでも、続いているし、面白い。活動が大変だ、面倒だということもあるが、「いやだ」とまではいかない。勉強等の息抜きになっており、気づいたら続いている。また、他の大学団体との交流もでき、高校時代とはステージが上がる。</p>
地域活動に参加するにあたって工夫していること	<p>大学が地域活動に協力するとなると、費用面、契約面等からハードルが高い。そのため自ら団体を立ち上げた。費用面で折り合わないもの（チラシ作成等）は自分の団体で引き受けるようにした。</p> <p>心がけているのは、単なる技術・ノウハウの提供ではなく、共有、継承すること。「丸投げ」は受けないようにしている。</p> <p>元々のやり方と折り合いをつけること。（例：意思決定が全会一致なら、まずそれを踏まえること）また、意思決定過程の手順をていねいに踏まえること。弾かれたら終わり。スピードを落とし、時間をかけて、これまでのやり方をリスペクトし、守りながら提案をしていく。）</p> <p>自分がカンフルになって、地域がより良く回れば良いと思っている。</p> <p>忙しくて集まりが悪いときもあるが、迷惑をかけたくないという思いから、ちゃんと進められていると思う。また、やりたくない人を無理に参加させなくてよい。強制することはできないし、それでは進まない。</p>
地域活動に参加するにあたって困ったこと	<p>小さい子どもへの接し方が分からず、戸惑った。</p> <p>全体に経験やノウハウがなかった。先輩のバックアップでのいだ。</p> <p>地域活動では広報にお金を割かない。高齢化が進んでいる中、若者を巻き込みたいという気持ちはあるが、どのようにすればいいか分からない。宣伝のことが話題に上がらない。</p> <p>金銭的な負担は大きい。チラシ制作にしても、地域が持っている予算は大学として受けられるような金額ではない。自分たちは研究の一環になるから、とボランティアという感覚でいる。ただ、地元の人間にしても負担を感じるのだから、相当厳しいのでは。</p> <p>意見調整、会議進行などファシリテーションのノウハウが不足している。そうした指導者が必要と感じる。</p>

項目	発言
地域活動に参加するにあたって困ったこと	同窓生を巻き込もうにも、すでに仕事を持っていると時間的な制約があり、難しい。
周囲に望むこと	大人には、会場や経済的な援助などの道筋をつけてもらいたい。
	大きなミスをしないようにサポートするのが大切。
	区立図書館の受け入れには感謝している。(図書館側も、若者の新鮮な発想や展示のしかたは欲しており、互いのニーズを満たす結果になった。)
	地域活動では男手やノウハウが少なく、次第に疲弊し活動規模が縮小していつている。区が一定のテンプレートを用意することも必要では。区がリードする立場にないなら、ファシリテーターとして、会議がどこまで進んだか等まとめるだけでも違うのでは。
区政/地域活動に参加していることを友人に伝える等、参加者を広げるには	情報はどんどん出す。そうすれば次につながる。
	参加を促すには「こういう勉強になる」等メリットを示す。また、相手が興味を持ちそうな役割を用意する。
	他の学生にどうやって広げるか。SNSにもチャレンジしていきたい。現状は、学生が必ず見ることから、大学の掲示板が有効だと思っている。
	参加する仲間それぞれの好み等を活かし、一人ひとりが楽しいと思えることが大事。
	やってみると、就活やゼミの研究につながることが多い。より知らせることができればいい。
	おためしの企画、参加しやすい(やめやすい)雰囲気がいいと思う。
	知り合いがいるといい。知らないところ、閉鎖的な雰囲気のところには入れない。

② サークル活動をきっかけに地域活動に参加した学生

項目	発言
地域活動サークルを選んだ理由	地域活動をしたかった。
	地域活動をしたかったが、今のサークルしかみつからなかった。
	サークルの雰囲気が良かった。
	サークル選びの一つ。

項目	発言
地域活動に興味をもった理由	<p>地方出身だが、地元の元気がなくなっていることが気になった。高校卒業時の課題研究で、地元商店街の人たちとかかわることがあり、早稲田に進学したら、早稲田地域の活動を学んできてほしいと言われた。</p>
	<p>進学時に地元自治体の寮が早稲田にあったので住み始め、まちのことを知ろうと思ったのがきっかけ。</p>
	<p>まちの情報を知りたいと思ったことがきっかけ。最初は地域活動にとまどいもあったが、早稲田のまちの雰囲気が良く、馴染めた。</p>
	<p>はじめは別のサークルで地域活動をしており、その流れで今のサークルに入った。地域の知り合いや常連の店などがあることで自分のホームタウンをつくりたいと思った。</p>
	<p>小学生のころからボランティアをしていた流れでまちづくりに興味があったため。</p>
ボランティアをしている意識について	<p>ボランティアをしている意識はない。</p>
	<p>イベントの運営などをみんなで楽しんでいる。</p>
	<p>(ボランティアの意識はないが)サークルの活動を話すと「ボランティア」だと言われる。</p>
まちの人との信頼関係について	<p>まちの信頼がなければ活動ができないので、信頼を得られるように心がけている。</p>
	<p>まちの懐が深く、学生を柔軟に受け入れてくれる。受け入れてもらえるところからも頑張れる。</p>
	<p>サークル活動だけではなく、日常生活でも地域との関係を作るようにしているので、街を歩けば知り合いに会う。</p>
	<p>進学で住むようになったので、積極的に地域との交流をもつようにしている。</p>
地域の人と深い人間関係を築くことについて	<p>いやではない。</p>
	<p>いやではない。話も面白い。地元ではそうした濃い関係は嫌だったが、大学生になってからはそうしたことを感じたことがない。早稲田がいい街なのかもしれない。</p>
	<p>まちに長くいるので、愛着が湧いてくる。大学よりも地域のほうが好きで、まちの人と飲みに行くなどしている。</p>
地域の人とのコミュニケーションについて	<p>世代を越えて地域の話を知っている。話しているまちの人、知っているほうもどちらも楽しんでいる。</p>

項目	発言
地域と関係をもってよかったことについて	実際のまちづくり知ること、就職先の目標を見つけることができた。
	色々なまちのひとと関わってよかった。
	当初からまちが好きというものではなかった。サークル活動をしていく中で、関係が深まっていくことが楽しかった。
	イベントで小学生を対象とする理由が分かった。子どもには保護者がいるので、子どもを通じて保護者も含めたネットワークづくりができる。
	色々な商店会があり、それぞれに特色があることを知ることができた。
	商店会の人たちとの関係ができているので、お店にいったときの対応などが違う。
地域との関係で大変だったことは	学生を使うだけの団体とは距離を置いた。
	自分たちのやりたいことを前提に関係を作っていた。
現在活動している場所以外（例えば地元）でも同じ活動ができるかについて	地域の土台が違うので難しいと思う。
	地域活動に参加するには、一定の関係性がなければ参加する意欲につながらない。
	現在活動を行っている地域も、地元のつながりが強いので、きっかけがないと入りづらい。
地域活動サークルの運営で苦労したことについて	サークル活動を途中で辞める人がいるため、イベント運営に影響が出ることがある。
	サークルのメンバー間で活動に対する考え方や熱量（意気込み）に違いがある。そうした状況を踏まえ、活動に熱心に取り組んでいるメンバーをラインで共有するなど、みんなが楽しめるサークルにするよう努めている。
まちの人とのトラブルについて	これまで、特にトラブルはない。まちの人はこれまでも大学生とかかわってきた歴史があるので、まちの人が学生に慣れていると思う。
活動を続けていくことについて	個人の状況を受け入れながら活動を続けられる環境にするように努めている。
	サークル内の温かい雰囲気が活動を続けられる理由。
	活動を続けていく中で、困ったことなどを助けてくれる人たちがいて、自分ができること、人にやってもらうことがあって続けられたと思う。
	続けている人がいる反面、地域で活動をする中で責任感を持って取り組まない人など、活動に合わない人には辞めてもらっていた。

項目	発言
地域活動をする上で学生であることのメリットについて	課題研究などの名目でまちの活動に入りやすいと思う。
	学生という身分がまちに入っていくツールだと考えている。
行政のバックアップについて	イベントスペースの確保などで支援があれば活動がしやすい。
	まちとの結びつきの視点では特にバックアップの必要性は意識していない。
	サークルの一つとしてしか見られていない。興味をもってくれる人とのマッチングなど情報共有をする仕組みがうまく作れればと思っている。
	取材など外部から興味をもってもらえることはモチベーションにつながる。
地域活動における若者の参加の余地について	活動の担い手として参加する余地がある。また、学生だと利害なく関われる部分があると感じている。
	ゼミで別の活動などをしていると地域外の人を排除するような雰囲気がある地域もある。
活動が多く休みがないことについて	イベントのために活動しているので、むしろやる気が出て楽しい。
	学業、バイトとのバランスを取るのは大変。
	地域の消防団に入っているのでその活動があるが、軽減してもらえている。活動が軽減されても居心地が悪くなることもなく続けやすい。
若者からみた良いまちについて	若者が少なくなってきたので、そうした若者をいかせるまちがいい「まち」だと思う。
地域活動から受けた自分の将来への影響について	教員志望なので、地域と関係を築いてきた経験が活かされると思う。
	地域の人たちと関係ができることで、一人ではないと思える。周りの大人から叱られることで成長ができたのではないか。
	大学卒業後は地元に戻ろうと思っていたが、まちが好きになったので帰るのを悩んでいる。
地域活動に友達を誘うことについて	誘ったことはある。しかし、運営にかかわるのは嫌だが、イベントの手伝い程度であればといった反応。
	中・高での部活の後輩を誘った。その子は途中でやめてしまった。
卒業してからも地域活動を続けることについて	地域活動をやりたい思いはあるが、地域活動だけでは稼げないのでそこをどうするか。

③ サークル活動を行う学生と一緒に活動している商店会会長

項目	発言
早稲田大学の学生とコラボしたきっかけは	<p>大学の夏休み期間に商店街が閑散とするので、人を呼び込もうというねらいで早稲田大学周辺商店連合会（以下W商連）がエコサマーフェスティバルを企画し、そこに店の常連の学生に声をかけ参加してもらううちに徐々に広がっていった。</p> <p>学生たちも参加するうちに地域活動を行うサークルを作ろうという機運が高まり、まっちワークというサークルができ、現在に至っている。</p>
その時の周りの商店会の反応は	<p>商店会が中心のイベントで、お店に来ていた学生に声掛けを行い、参加者を募っていた。</p>
現在に至るまでの経緯について	<p>まず、早稲田の地域では、「まちは学生の味方。学生のやりたいことには協力する。」という考えが根底にある。</p> <p>そうした土台がある中、まちの取組と学生の自主的な取組が自然と役割分担されてきた。</p> <p>エコサマーフェスティバルは、現在、地球感謝祭となっており、運営のほとんどは早稲田の学生たちが担っているが、W商連の幹部が一定程度関わり、まちの意向を伝えながら支障なく運営がされている。</p> <p>また、まっちワークとの関係やお店に来た学生への声掛けにより、早稲田祭の運営スタッフやアトム通貨事務局などのサークルとの関係性ができている。</p>
学生は、卒業などにより数年単位でメンバーが入れ替われるが、関係を継続できている理由について	<p>サークル活動なので、先輩が後輩をまちの人に紹介することで、徐々にまちに馴染んでいくというしくみが自然とできている。</p> <p>まちとの関係ができた学生は、店に客として来てくれるので、そうしたことを通じて関係を深めていくことができている。</p> <p>また、学生からの提案で、商店会や町会の方と年2回の懇談会を開催しており、まちと学生の関係を深めている。今の学生は、昔に比べて、礼儀正しく、素直だが関係づくりが上手くない部分があるが、こうした取組があることで、まちからも打ち上げの声掛けなどがしやすくなり、新しい学生との関係づくりもしやすくなっている。</p> <p>サークルの代表が変わるときには、まちの主だった人たちに挨拶をしており、そうしたことも関係性の継続につながっている。</p>

項目	発言
学生の入れ替わりで関係がリセットされる部分などあるが、まちの負担にはならないのか	サークルのメンバーが変わると、新しいメンバーに指導をしなければならないことがあるにはある。しかし、サークルの先輩からの引継ぎや指導もあるので、まちが100%やらなければならないわけではないので、あまり負担を感じていない。
学生以外の若者（18歳～39歳）の地域活動の参加状況について	早稲田の地域で育った若者でも、商店に関わりのない若者とはあまりつながりがない。
学生がまちづくり活動に参加することがまちもたらす効果について	若者とかがわり話せることが幸せ。若者と話すことで元気が出る。また、学生とのかかわりが店の売り上げにもつながり、経済的にも元気が出る。
まちづくりサークルの学生が卒業後も引き続きまちの活動に関わり続けている事例について	早稲田のまちが気に入って、戻って来て住み始める者もいるし、会社員を続けながら、まちの活動に関わり続けている者もいる。
今以上に若者がまちに関わる必要性を感じているか	現在、地球感謝祭や早稲田祭といった活動があるため、現状では十分だと考えている。
その他	毎年地域活動を頑張ってくれた学生（3年生）に対して、W商連として、感謝状を渡している。例年、3団体から各1名以上選出し、まちと大学との懇談会（毎年1月開催）で、大学の職員などがいる場で感謝状を贈呈している。
その他	まちの中には、学園祭がうるさいなど、学生の活動をよく思っていない人も一部はいる。そうした方への対応のアドバイスなどもして学生の活動をサポートしている。

早稲田大学周辺商店連合会（W商連）運営理事会調査概要

開催日：平成30年7月7日（土） 19：00～20：30

出席者：W商連6名、早稲田学生12名

(1) 運営理事会の運営状況

- 早稲田大学周辺の商店会会長・役員の方々の定例的な打ち合わせ会に学生が参加している。
- 今回出席していたのは、アトム通貨事務局、まっちワークグループ早稲田、早稲田祭運営スタッフの学生。
- 打ち合わせでは、商店会が実施するイベントへの協力・連携の打ち合わせや、大学のイベントへの協力依頼や事前の調整事項を学生代表として商店会と渉外折衝していた。
- 打ち合わせの様子は終始和やか。学生も資料を用意し、商店会会長に依頼・報告をしていた。
- 学生からは、商店会のお店とのトラブル事例や安全性に疑義のあるイベント実施の報告があった。

(2) 個別案件の内容

- ① 某サークルによる「アトム通貨」の名称の無断使用について
某サークルが地域通貨である「アトム通貨」の名称をアトム通貨事務局を通さずポスターに使用し、商店会加盟のお店に掲示依頼等をしたという内容。
学生からは、地域に迷惑をかけたという謝罪があった。商店会からは、学生によるアトム通貨の名称の無断使用でトラブルが起これば、アトム通貨に対する信頼がなくなってしまうといった点を注意した上で、大学内での連携が委縮しないよう、学内のルールづくりについて提案があった。
- ② 地球感謝祭のイベントについて
早稲田の地球感謝祭において、保冷剤を使用した芳香剤づくりを小学生に体験させるイベント実施について学生から報告があった。実施に当たっては、保冷剤の中身を出した作業が必要となるが、保冷剤の中身が劇物である可能性があり、健康被害が発生する可能性があるとのこと。
そうした報告を聞いた商店会会長からは、万が一健康被害等があった場合、今後、地域イベントなどができなくなる可能性などもあるので、安全性が確認できないのであれば実施すべきではないという指摘があった。
学生も安全に対する考えが甘かった点を踏まえ、調査・検討するよう回答していた。
- ③ 早稲田の学生と商店会会長との懇親会について
公式なイベントのほか、学生と商店会会長との懇親会の開催の案内や地域の水稻荷神社のお祭りへの参加などが周知されていた。
- ④ 新宿ビジネスプランコンテストについて

産業振興課から、35歳以下に対する起業支援事業への応募の周知を行った。

商店会長から、商店会で企画した事業を早稲田の学生による提案としてまとめることや、学生時に起業するメリットなどについて発言があった。

⑤ 地域の小学校とのかかわりについて

商店会長から地域のイベントや学祭などを通じた早稲田の学生の戸塚第一小学校とのかかわりについて、御礼の発言があった。

(3) 打合せ会の様子から感じたこと

- 運営理事会全体として、商店会と学生が早稲田のまちを一緒に運営しているというお互いの信頼関係によって成り立っていることが伝わってきた。
- 特に今回はトラブル等に関する内容もあったが、大学と商店会でどのように解決していくのかといった視点で意見交換がされており、学生の活動を商店会がサポートすることでより良い活動になっているという印象。
- 学生と商店会との懇親会も定期的に行われているようで、そうした取り組みも良好な関係づくりに寄与しているものと思われる。

資料3 若者関係事業一覧

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
1	参加	H29	しんじゆく若者会議 (計画事業 41「若者の区政参加の促進」)	日頃、区と関わりの少ない若い世代の方の、区への関心を高めたり、区政への関わりを持つきっかけをつくる。 1 対象:区内在住の 18 歳～39 歳 2 内容:テーマについてグループごとに自由な討議を行い、意見を発表する。発表を受け、区長が直接コメントする。 3 テーマ:「若者のつどい」について	区政情報課
2	実態把握	H29	しんじゆく若者意識調査 (計画事業 41「若者の区政参加の促進」)	区内在住の 18～39 歳の若者に対して区政への関心度などを調査し、今後の若者に対する施策に反映し、事務事業等に活かす。 1 対象:区内在住の 18～39 歳 2 内容:インターネットによるアンケート調査形式により実施する。 3 テーマ:「居住意向」、「居住年数」、「転出したい理由」、「区政への関心」「区政への関心の理由」「区の行政サービスに関する情報の入手方法」など 20 問程度	区政情報課
3	参加	S44	はたちのつどい	成人を迎えた若者たちの門出にあたり、区内在住の新成人が集い、成人の日を祝う。	総務課
4	参加	H28	多様な主体との連携による多世代への防災思想の普及	地域防災の担い手の高齢化・偏在化を解決するため、若年層・ファミリー層・外国人等の幅広い年齢層が参加しやすい体験型の防災イベントを実施し、防災知識並びに防災技術の向上を図るとともに、地域防災コミュニティづくりにつなげていく。 ・平成 30 年 9 月 2 日(日)「しんじゆく防災フェスタ 2018」を都立戸山公園及び新宿スポーツセンターで実施した。	危機管理課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
5	参加	不明	消防団員募集	地域防災力の向上には、消防団の力が不可欠であるが、現在、消防団員数の減少、団員高齢化の解消が課題となっており、区内各消防団・消防署と連携し、若者世代の入団促進に取り組んでいる。	危機管理課
6	支援・啓発	H30	町会・自治会向け講演会及びコンサルティングの実施 (計画事業 42「町会・自治会活性化への支援」)	希望する町会・自治会に対してコンサルティングを実施し、町会・自治会の魅力を向上させることで、加入率のアップを狙う。 町内の若い世代に対してもアプローチを行い、次世代の町会・自治会の担い手育成を支援する。	地域コミュニティ課
7	支援・啓発	H23	ブログ・SNS アドバイザー (計画事業 42「町会・自治会活性化への支援」)	町会・自治会の情報発信手段の一つとして、町会・自治会関係者に対して SNS(Facebook やブログ)の講座を行っている。 29年度まではブログ講座であったが、「しんじゅく若者会議」の意見を受け、平成30年度からは Facebook を中心とした入門講座を実施している。	地域コミュニティ課
8	参加	H16	文化体験プログラム	様々な文化芸術を気軽に体験できる機会を提供することにより、区民の文化芸術活動への参加を促進し、地域文化の振興を図る。	文化観光課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
9	支援・啓発	H29	(計画事業 88②「大学等との連携による商店街支援」)	大学等が持つ専門性や人的資源(教員・学生等)を活かしながら、商店街の抱える潜在的な課題の解決に向けた取組を支援する。また、大学等(教員・学生等)と地域(商店街)の連携・交流を進めることにより、商店街の魅力づくりを推進する。	産業振興課
10	支援・啓発	H30	新宿ビジネスプランコンテスト (計画事業 41「中小企業の新事業創出支援」)	東京商工会議所新宿支部と連携して、「新宿ビジネスプランコンテスト(SHINJUKU DREAM ACTIVATION)」を開催する。区内の若者を対象として、事業計画策定に向けたセミナーや個別指導を行うとともに、優れた事業を表彰することで、創業気運の醸成及び事業化に向けた支援を行う。 ※対象 区内の在住・在学・在勤者、または創業後3年以内の中小企業者で、年齢が35歳以下であること。	産業振興課
11	支援・啓発	H23	高田馬場創業支援センターの管理運営	高田馬場創業支援センターでは、区内における創業支援及び地域産業の新たな展開支援を行うため、指定管理者による管理のもと、オフィススペースの提供や創業に関する情報提供・経営相談等による創業支援、起業家支援を行っている。利用者の約3/4は若者が占める。	産業振興課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
12	支援・啓発	H28	人材確保支援事業 (U29 中小企業 de 働く魅力発見事業)	若者のしごと探しサイト「新宿区U29しごと図鑑」の運営を中心に合同企業説明会や就職支援セミナーを通じて、若者と区内中小企業のマッチングを支援する。H30からは大学1、2年生を対象とした企業とのワークショップを開催している。	消費生活就労支援課
13	支援・啓発	H23	勤労者・仕事支援センター運営助成等 (若年者就労支援事業)	勤労者・仕事支援センターへの運営助成を通じて、非就業状態の概ね15歳から39歳までの若者を対象に、将来若者が職業的自立を目指すための支援を行う。 ・若年者就労支援室「あんだんて」の運営 ・若年者インターンシップ ・はじめの一步応援事業 ・若者ここからステップアップ事業(H30～)	消費生活就労支援課
14	支援・啓発	H29	人材確保支援事業	ハローワーク新宿・新宿労働基準監督署と連携し、若者のつどいの場において「クイック職業相談・労働相談」コーナーを設け、若者に対して職業・労働相談機関の周知や、就労支援・自立支援等の行政サービスの周知を図っている。また、若者のつどいの場を活用し、しんじゅく若者サポートステーションと連携し、若者の職業生活・社会生活の充実を目的としたイベントを開催している。	消費生活就労支援課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
15	支援・啓発	H25	消費者情報の提供	「かしこい消費者」を育成するため、若者に正しい情報を提供する。商品・サービスをはじめとした消費生活に関する情報をタイムリーに提供し、消費者としての知識を啓発し、消費生活の知識を啓発し、消費生活の安定向上に役立つように努める。	消費生活就労支援課
16	参加	H29	地域支え合い活動の推進(計画事業10「地域支え合い活動の推進」)	<p>地域の中で高齢者の自立を支援し、多世代が互いに支え合う「地域支え合い活動」を推進するため、平成30年2月に開設した「薬王寺地域ささえあい館(愛称:ささえーる 薬王寺)」を拠点として、活動を推進している。</p> <p>(1)「地域支え合い活動」を行う者、団体であれば、年齢に関係なく館を利用できる。</p> <p>(2)館で実施している「地域支え合い活動」に資する講座は、対象年齢を設けず若者を含め受講できる。</p> <p>(3)館では、「早稲田美容専門学校」の学生ボランティアによる「アロマハンドトリートメント」を月1回実施しており、若者と高齢者、また児童館等を利用する保護者との交流の機会ともなっている。</p>	福祉部 地域包括ケア推進課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
17	支援・啓発	H24	子ども・若者総合相談窓口の運営 (計画事業 19「子どもから若者までの切れ目のない支援の充実」)	子ども・若者を対象とした相談事業を実施している既存の各種相談窓口に、「子ども・若者総合相談」の案内を表示し、困難を抱える子ども・若者やその保護者からの相談を受け付けている。	子ども家庭課
18	支援・啓発	H22	若者応援講座	若者を対象に、男女共同参画社会の必要性についての認識を深めるための講座を開催する。	男女共同参画課
19	参加	H23	若者のつどい	20代から30代の若者を中心に、若者同士が出会い、交流しながら、夢と希望を持ってまちの未来を切り開く力を持てるように、若者の元気を引出し応援することを目的として開催する。また、イベントをとおして、若者に関する区の施策について情報提供し、行政を若者に身近なものにする。	男女共同参画課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
20	支援・啓発	H28	子ども・家庭若者サポートネットワークの運営(計画事業19「子どもから若者までの切れ目のない支援の充実」)	<p><子ども・家庭若者サポートネットワーク(以下、ネットワーク)の運営> ネットワークは、18歳未満を対象とする児童福祉法規定の「要保護児童対策地域協議会」の位置づけに加え、子ども・若者育成支援推進法規定の「子ども・若者支援地域協議会」としても位置づけられ、困難を有する若者に対する総合的な支援について協議している。ネットワークのうち若者に関しては、5つある実務者会議の一つとして若者自立支援部会、個別のケース検討を行うサポートチーム会議がある。</p> <p>(1)若者自立支援部会 年2~3回実施 年間活動計画の確認及び部会構成機関による意見交換、研修、講演会を実施している。</p> <p>(2)サポートチーム会議の実施(H29は実績なし。ただし、18歳到達以降のケースに限る。)</p> <p>立支援部会、サポートチーム会議への出席。その他、区立中学校や東京都東部学校経営支援センター(都立学校のサポート機関)との情報共有による支援対象者の掘り起こしなども行っている。</p>	子ども総合センター

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
21	支援・啓発	H28	子ども・若者総合相談窓口の運営 (計画事業 19「子どもから若者までの切れ目のない支援の充実」)	<p><子どもと家庭の総合相談></p> <p>子ども総合センターでは子ども家庭支援ワーカー1名を若者支援担当としている。若者の自立支援や18歳到達以降も適切な受け皿につながるよう、要保護・要支援児童のうち、思春期年齢層を主な対象として早期の支援を行っている。</p> <p>(1)対象:中学生～概ね20代前半 ※ただし、相談受付時に18歳未満の要保護・要支援児童であった者</p> <p>(2)18歳到達以降の継続支援者数6人 (H30.10.1現在の延べ数) ※平成29年度は延べ6人</p> <p>(3)取り組み内容 就労、教育、医療等の関係機関と連携し、ケースワークを中心とした支援。若者自立支援。若者自立支援部会、サポートチーム会議への出席。その他、区立中学校や東京都東部学校経営支援センター(都立学校のサポート機関)との情報共有による支援対象者の掘り起こしなども行っている。</p>	子ども総合センター
22	支援・啓発	H27	若者向け相談窓口周知用冊子「ひとりで悩んでいるあなたへ」の作成・配布 (経常事業「自殺総合対策」)	<p>新宿区の自殺者の中で高い割合を占める若者を支援するため、悩みを乗り越えた人の体験等を掲載した冊子を作成し、配布する。また、一部冊子はポケットティッシュに封入し、情報を入手しやすくする。</p> <p>・冊子作成数:6,000部 ※うち、ポケットティッシュ封入1,000部</p>	健康政策課

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
23	支援・啓発	H5	民間賃貸住宅家賃助成(学生及び勤労単身者向)	区内の民間賃貸住宅に居住する18歳～28歳の学生及び勤労単身者へ、家賃の一部を助成することで、定住化の促進及び健全なコミュニティの形成を図る。 【助成内容】月額1万円を最長3年間助成	住宅課
24	支援・啓発	H28	中央図書館図書展示	18才選挙権実施に伴う啓発のため、選挙管理委員会事務局からの依頼により、投票日までの数週間、選挙啓発のため関連した図書を集めて展示を行う。その際、若者向けの本を多く展示する。	中央図書館
25	支援・啓発	H28	高校生等向け選挙出前授業	区内高等学校・高等専修学校において、政治や選挙への関心を高めるため、選挙出前授業や模擬投票を行っている。【29年度実績】実施校数:4校参加生徒数:計997名	選挙管理委員会事務局
26	参加	H26	大学生グループとの連携による選挙啓発①	小学6年生向け選挙出前授業を、早大文学部教育学コース学生により構成された「早大模擬選挙班」との協働により実施している。授業で使う教材(パワーポイント資料)は、学生が自分達で作成している。 【29年度実績】 実施校数:9校(小学校実施校数は15校)	選挙管理委員会事務局

No.	分類	開始年度	若者関係事業の名称	事業内容	所管課
27	参加	H26	大学生グループとの連携による選挙啓発②	高校生等向け選挙出前授業や「ふれあいフェスタ」等を、大学生グループ「日本学生会議所」と協働で実施している。	選挙管理委員会事務局
28	支援・啓発	H30	若者向け啓発リーフレットの作成・配付	18～22歳を対象に、新宿区長選挙への投票参加を促すため、投票制度(期日前投票・不在者投票等)の紹介、候補者情報の入手方法を周知するためのリーフレットを作成・配付(郵送)する。 ・作成部数 10,000部 ※H30年度事業終了	選挙管理委員会事務局
29	支援・啓発	H30	子育て世代向け啓発チラシの作成・配付	子育て世代(主に20歳代後半～30歳代を想定)を対象に、「子供を投票所に連れていくことが主権者教育につながる」ことを訴え、投票率が低い当該世代の新宿区長選挙への投票参加を促す内容のチラシを作成・配付する。	選挙管理委員会事務局

政策課題研究PTメンバー（行政順）

所属	氏名
地域振興部 落合第一特別出張所	福岡 淳也
地域振興部 角筈特別出張所	堀里 威宏
福祉部 地域包括ケア推進課 地域包括ケア推進係	青山 豊
福祉部 介護保険課 資格係	菊地 ゆみ
健康部 高齢者医療担当課 高齢者医療係	小原 良太
都市計画部 景観・まちづくり課	高橋 和孝

政策課題研究PT 全体会開催実績

No.	開催日		概要
1	平成30年5月22日	火	顔合わせ
2	5月31日	木	テーマについてのフリートーク
3	6月11日	月	テーマについてのフリートーク
4	6月29日	金	レファレンスの実施検討・ヒアリング実施検討
5	7月12日	木	レファレンス結果報告・ヒアリング実施報告
6	7月25日	水	レファレンス報告・ヒアリング実施報告
7	8月13日	月	今後のスケジュール検討・ヒアリング実施報告
8	8月30日	木	レファレンス報告・ヒアリング実施報告・報告書骨子案の検討
9	9月10日	月	報告書骨子案の検討・ヒアリング実施報告
10	9月20日	木	政策提案内容の検討
11	10月10日	水	新宿区の若者関係事業調査結果確認
12	10月19日～ 平成31年2月25日		データ分析・課題抽出・政策提案等の検討状況についての共有
13	3月4日	月	報告書案の検討
14	3月7日	木	報告書案の検討・発表用資料の検討
15	3月8日	金	報告書案の検討・発表用資料の検討
16	3月11日	月	発表リハーサル（PT内）
17	3月12日	火	発表リハーサル（自治創造研究所所長、総合政策部長へ）
18	3月18日	月	発表会前の最終調整
19	3月22日	金	政策課題研究発表会

つながる環 ひろがる場

～若年層の区政参加・地域活動への参加～
平成 30 年度政策研究 P T 報告書

平成 31（2019）年 3 月発行

新宿区新宿自治創造研究所

新宿区西新宿 7-5-8 新宿都税事務所 2 階

電話 (03)3365-3474（直通）

FAX (03)3365-3472

E-Mail jichisozo@city.shinjuku.lg.jp

新宿区総務部人材育成センター

新宿区西新宿 7-5-8 新宿都税事務所 2 階

電話 (03)3365-3471（直通）

FAX (03)3365-3472

E-Mail kensyu@city.shinjuku.lg.jp